

2016年（平成28年）
投資信託に関するアンケート調査
（NISA、iDeCo等制度に関する調査）
調査結果サマリー



2017年（平成29年）3月
一般社団法人 投資信託協会

	ページ
■ 調査計画の概要	2
1. 本調査の回答者プロフィール	3
2. NISA制度の浸透状況、今後の利用意向	4
3. ジュニアNISA制度の浸透状況、今後の利用意向	9
4. 企業型確定拠出年金の浸透状況、今後の利用意向	14
5. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向	16
6. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向	22

～ 投資信託全般についての実態把握調査のご案内 ～

本アンケート調査とは別に、投資信託全般の保有状況や特徴認知等の実態を把握する調査「投資信託に関するアンケート調査」を実施し、2016年12月に投資信託協会のホームページにて公表しておりますので、そちらも併せてご参照ください。

<投資信託協会ホームページURL>
<https://www.toushin.or.jp/>

■調査計画の概要

調査の目的	全国の20歳～79歳の男女個人を対象に、『ETF、J-REIT』の認知・保有状況、魅力度、不満点、購入意向などを把握すると同時に、『NISA、ジュニアNISA、企業型／個人型確定拠出年金』制度の認知・利用状況、口座での金融商品未購入理由や口座未開設理由、利用意向などを確認し、今後の投資信託の利用拡大及び啓発普及活動に役立つ資料とすること。								
調査手法	インターネット調査（抽出フレーム：インターネットモニター） ※ インターネット調査のモニターは、一般的に情報感度が高い事が確認されており、金融商品（投資信託）においては保有率や制度認知が郵送調査モニターなどに比べて高めに出る傾向にあります。								
調査地域	全国（首都圏、阪神圏、その他地域の3ブロック）								
調査対象	20～79歳の男女								
サンプル数	総計20,000サンプル								
	* 性・年代・エリアで割付実施（割付は平成27年1月1日現在の住民基本台帳に基づく）。								
	* 職業条件による除外は実施していない。								
	<性・年代・エリアごとの回収数詳細>								
			20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	20-79歳計
	男性	首都圏	431	556	634	458	479	361	2919
		阪神圏	201	241	290	220	259	200	1411
		その他地域	774	954	1051	940	1101	767	5587
	男性計		1406	1751	1975	1618	1839	1328	9917
	女性	首都圏	406	521	592	431	493	418	2861
阪神圏		200	246	295	227	281	240	1489	
その他地域		735	921	1036	954	1151	936	5733	
女性計		1341	1688	1923	1612	1925	1594	10083	
TOTAL		2747	3439	3898	3230	3764	2922	20000	
※ エリアの定義とエリア計での回収数は以下の通り。									
【首都圏】 東京、神奈川、埼玉、千葉／計5780サンプル				【阪神圏】 大阪、京都、兵庫、奈良／計2900サンプル					
【その他地域】 上記以外の都道府県／計11320サンプル									
調査時期	2016年11月24日（木）～12月6日（火）								
調査主体	一般社団法人 投資信託協会								
調査実施機関	株式会社インテージ								

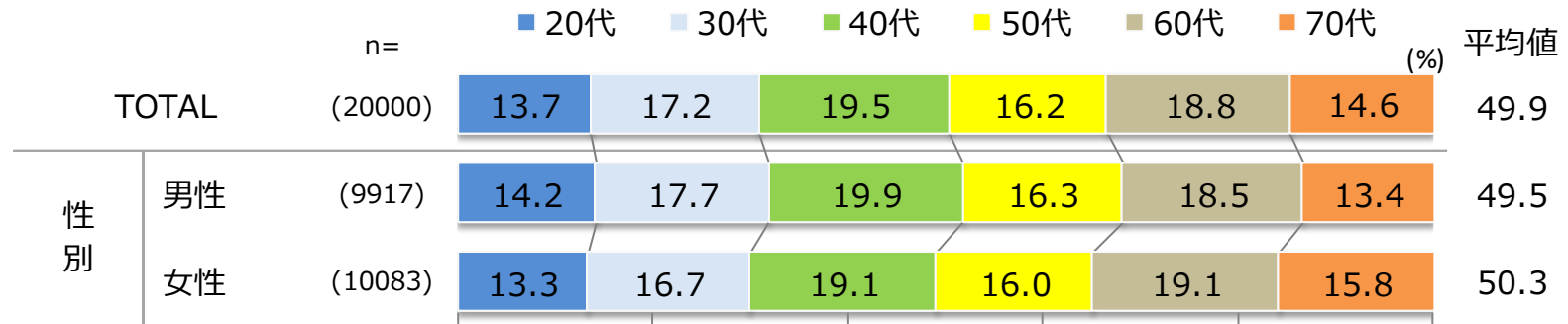
<グラフ・表・コメントについて>

- ・ 本報告書の回答割合等の数値(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出している。
- ・ グラフ、数表上の数値は特に断りがない限りは%値となる。また“n”は各属性の実数(サンプル数)を表しており、n数が少ない属性(30未満)のデータをみる際は、あくまで参考値として捉える様に注意する必要がある。

1. 本調査の回答者プロフィール

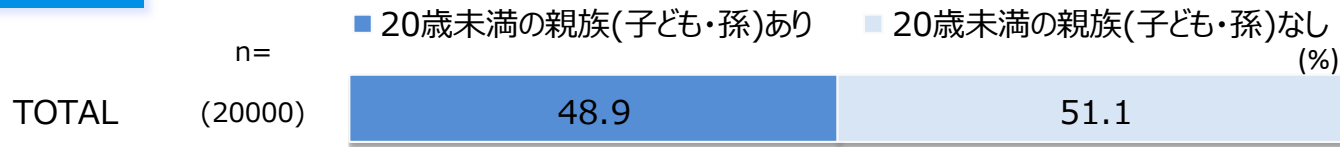
回答者の性別・年代

(Q2)



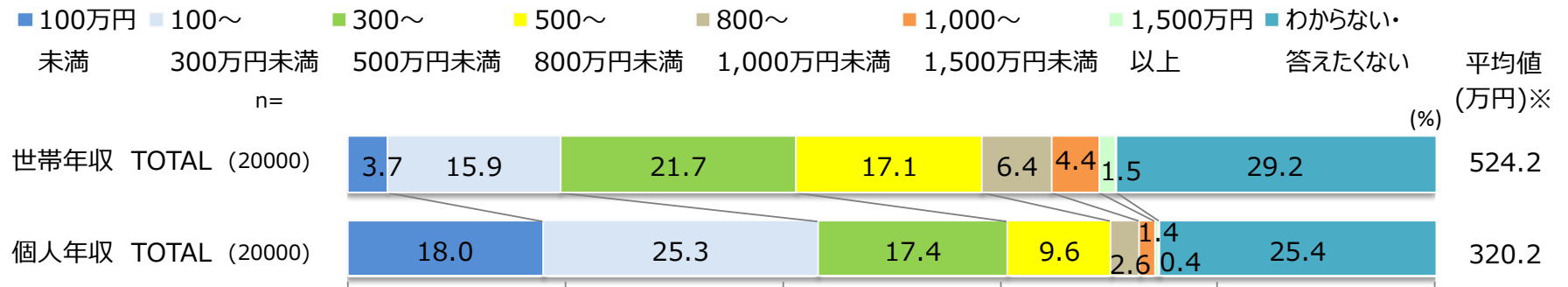
20歳未満の親族の有無

(Q4)



回答者の年収

(Q5①②)



※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

100万円未満：50万円 / 100~300万円未満：200万円 / 200~500万円未満：400万円 / 500~800万円未満：650万円 / 800~1000万円未満：900万円 / 1000~1500万円未満：1250万円 / 1500万円以上：1750万円

2. NISA制度の浸透状況、今後の利用意向（1）

NISAの認知/利用状況/積立投資実施状況/口座開設金融機関

(Q15①、Q16①、Q18①、Q19①)

【認知】

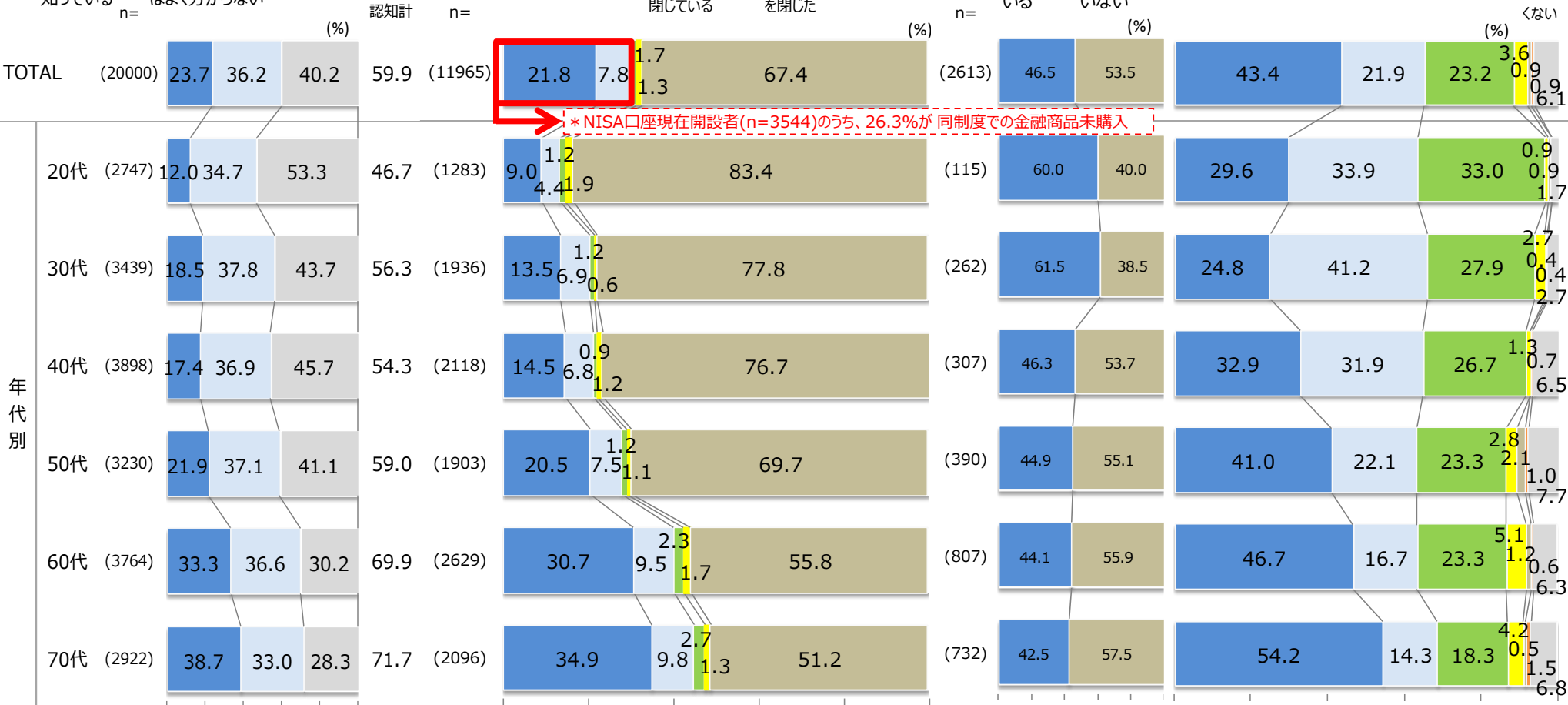
■ 名前も 制度内容も 知っている
 □ 名前は知って いるが、制度内容 はよく分からない
 □ 知らない

【利用状況】（認知者ベース）

■ 口座を開設 して、現在も 金融商品を 保有している
 □ 口座を開設 したが、まだ 金融商品を 購入した ことはない
 ■ 過去に口座 開設し金融 商品を保有 していたが、 現在は口座を 閉じている
 ■ 過去に口座 開設したが、 金融商品を 保有することなく 口座を閉じた
 ■ 今までに 口座を 開設した ことはない

【積立投資実施状況/口座開設金融機関】 （現在口座開設・金融商品保有者ベース）

■ 実施 している
 ■ 実施 していない
 ■ 証券 会社
 ■ ネット 証券
 ■ 銀行
 ■ 信託 銀行
 ■ 信金
 ■ その他
 ■ わから ない・ 答えた くない



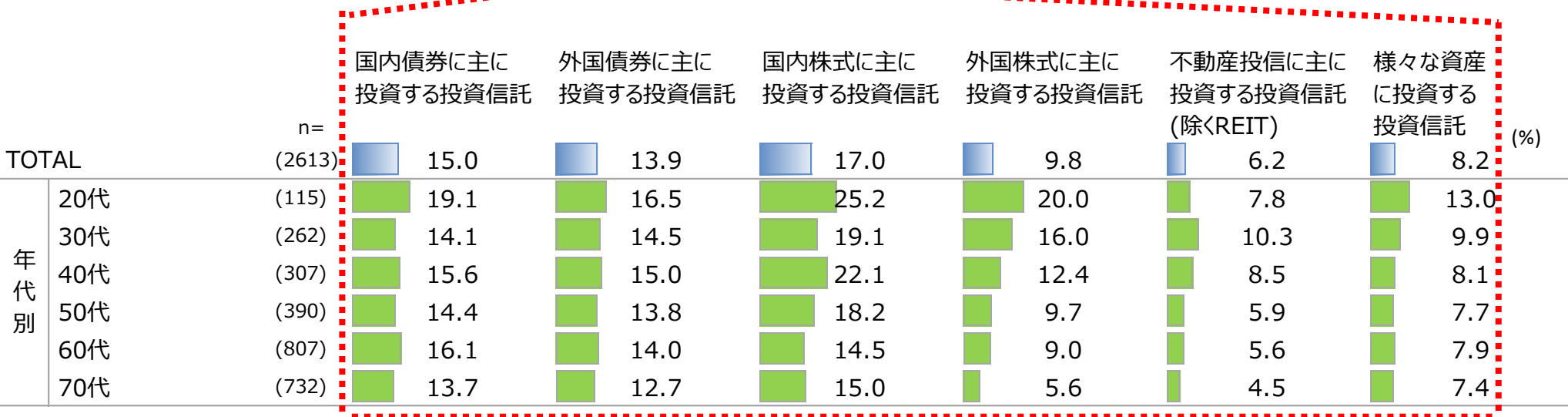
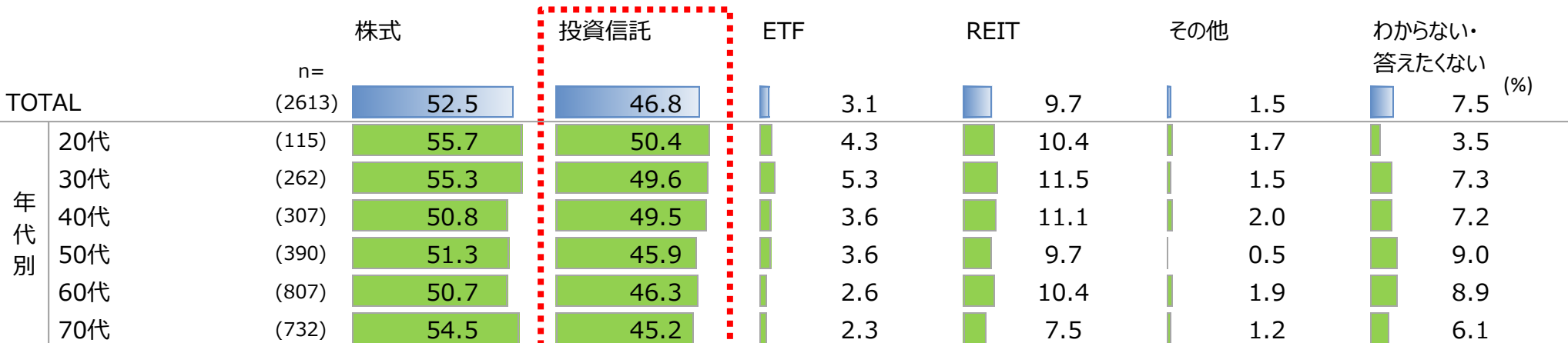
- NISAの認知率(認知計)は59.9%。制度内容認知率は23.7%となり、年代が上がるにつれ認知率は高まる傾向。
- NISA認知者のうち、同制度での現在金融商品保有者は21.8%に留まる。また口座開設したが金融商品を保有していないのは7.8%となり、現在NISA口座開設者(計29.6%)の約4人に1人が金融商品の購入に至っていない模様。年代別では高齢層ほど、同制度での現在金融商品保有者が多くなる。
- NISAでの積立投資実施率は46.5%と半数弱で、若年層ほど高い。口座開設の金融機関は「証券会社」が43.4%で最多。「証券会社」は高齢層ほど多い。

2. NISA制度の浸透状況、今後の利用意向（2）

NISAでの保有金融商品（重複回答）

(Q17①)

(NISAでの現在金融商品保有者ベース)



- NISAでの保有金融商品をカテゴリごとに見ると、「投資信託」(46.8%)は、「株式」(52.5%)に次いで多い。また「ETF」(3.1%)、「REIT」(9.7%)は10%に満たない反応。投資信託の中では「国内株式に主に投資する商品」の保有率が17.0%と、他商品に比べやや高い。
- 若年層ほど「投資信託」の保有率は増し、「国内／外国株式に主に投資する商品」が顕著に高い。

2. NISA制度の浸透状況、今後の利用意向（3）

NISA口座開設・金融商品未購入理由（重複回答）

(Q20①)

(NISA口座開設・投資性商品未購入層ベース)

		投資に回す お金がない から	どの商品を 購入してよい かわからない から	金融機関に 勧められて 口座開設 しただけ だから	経済状況 など、商品 購入や口座 開設のタイ ミングを見定め ているから	投資自体に 関心がない から	投資の知識 がないから/ 知識がない と難しそう だから	非課税期間 が短いから	制度が複雑 でよく理解 できないから	年間の 非課税投資 限度額 (120万円) が小さいから	制度内容を 知らないから	株式や投資 信託以外の 商品(国債 など)が購入 できないから	既に十分な 資産があり、 投資は必要 ないから	その他	特に理由 はない
TOTAL	n= (931)	20.7	19.9	17.3	11.1	9.0	8.4	7.9	7.2	6.9	5.4	4.8	0.9	1.6	21.3
年代別	20代 (57)	21.1	28.1	14.0	14.0	7.0	8.8	10.5	7.0	5.3	8.8	8.8	1.8	5.3	17.5
	30代 (134)	18.7	28.4	12.7	14.2	6.7	13.4	11.2	12.7	7.5	11.2	5.2	0.0	3.0	17.2
	40代 (143)	23.8	24.5	15.4	8.4	6.3	10.5	10.5	6.3	5.6	7.0	4.2	1.4	0.7	13.3
	50代 (142)	17.6	16.9	12.7	9.9	9.9	2.8	5.6	4.2	6.3	5.6	3.5	0.0	1.4	26.8
	60代 (250)	21.2	20.0	17.6	9.6	10.4	8.4	7.2	5.2	7.6	3.2	5.6	1.2	0.4	23.6
70代 (205)	21.5	10.7	25.4	12.7	10.7	7.3	5.9	8.8	7.3	2.0	3.9	1.0	2.0	23.9	

NISA口座未開設理由（重複回答）

(Q20①)

(NISA口座未開設層ベース)

		投資自体に 関心がない から	投資に回す お金がない から	投資の知識 がないから/ 知識がない と難しそう だから	制度内容を 知らないから	どの商品を 購入してよい かわからない から	制度が複雑 でよく理解 できないから	口座開設の 申込手続き が煩雑で 面倒だから	非課税期間 が短いから	年間の 非課税投資 限度額 (120万円) が小さいから	経済状況 など、商品 購入や口座 開設のタイ ミングを見定め ているから	株式や投資 信託以外の 商品(国債 など)が購入 できないから	既に十分な 資産があり、 投資は必要 ないから	その他	特に理由 はない
TOTAL	n= (8068)	24.3	21.6	16.9	14.5	10.8	9.2	7.7	3.3	3.2	2.1	1.3	0.6	0.9	32.2
年代別	20代 (1070)	23.4	24.3	27.0	24.4	14.6	13.7	7.0	2.1	1.1	2.7	0.6	0.6	0.3	28.5
	30代 (1506)	20.4	24.1	22.6	21.7	15.3	13.4	9.3	3.0	2.3	2.7	0.5	0.4	0.9	28.6
	40代 (1624)	21.4	23.3	18.9	16.6	12.1	9.7	8.7	3.4	2.4	2.2	1.2	0.5	1.2	30.2
	50代 (1327)	26.1	22.5	13.6	10.3	9.6	6.5	7.4	2.9	3.3	2.2	1.4	0.6	0.7	32.2
	60代 (1467)	28.4	17.1	10.5	6.7	7.1	5.7	6.9	4.1	4.4	1.2	2.2	0.9	0.9	36.5
70代 (1074)	27.5	17.7	8.6	6.9	5.7	6.2	6.4	4.2	5.8	1.4	1.8	0.7	1.5	37.8	

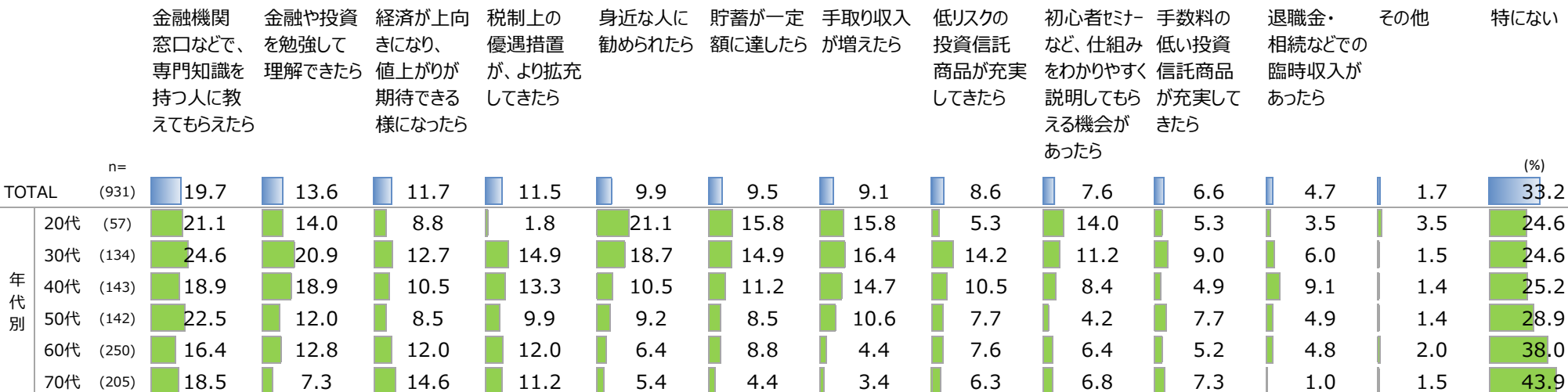
- NISAでの金融商品未購入理由は「投資に回すお金がない」(20.7%)、「どの商品を購入してよいかかわからない」(19.9%)、「金融機関に勧められて口座開設しただけ」(17.3%)が上位にあがる。年代別では高齢層ほど「金融機関に勧められて開設しただけ」が増加し、若年層ほど「どの商品を購入してよいかかわからない」が増加する傾向。
- NISA口座未開設理由は、「投資に関心がない」(24.3%)、「投資に回すお金がない」(21.6%)が上位にあがる。年代別では、若年層ほど「投資の知識がない」「投資に回すお金がない」「制度内容を知らない」「どの商品を購入してよいかかわからない」「制度が複雑で理解できない」が高く、知識のなさや経済的理由が多くなる。

2. NISA制度の浸透状況、今後の利用意向（4）

NISAでの金融商品購入のきっかけ（重複回答）

(Q21①)

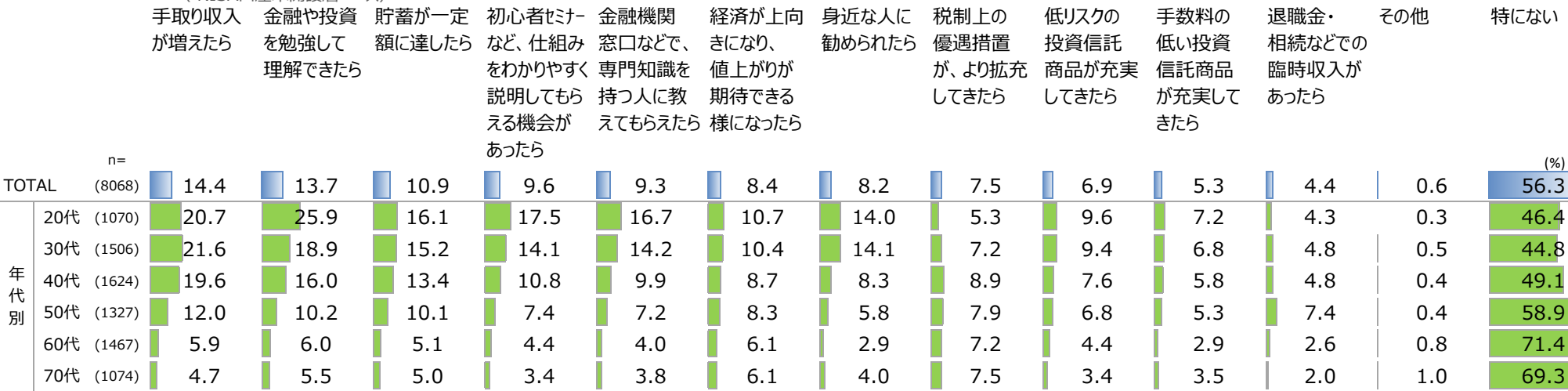
(NISA口座開設・投資性商品未購入層ベース)



NISA口座開設検討のきっかけ（重複回答）

(Q21①)

(NISA口座未開設層ベース)

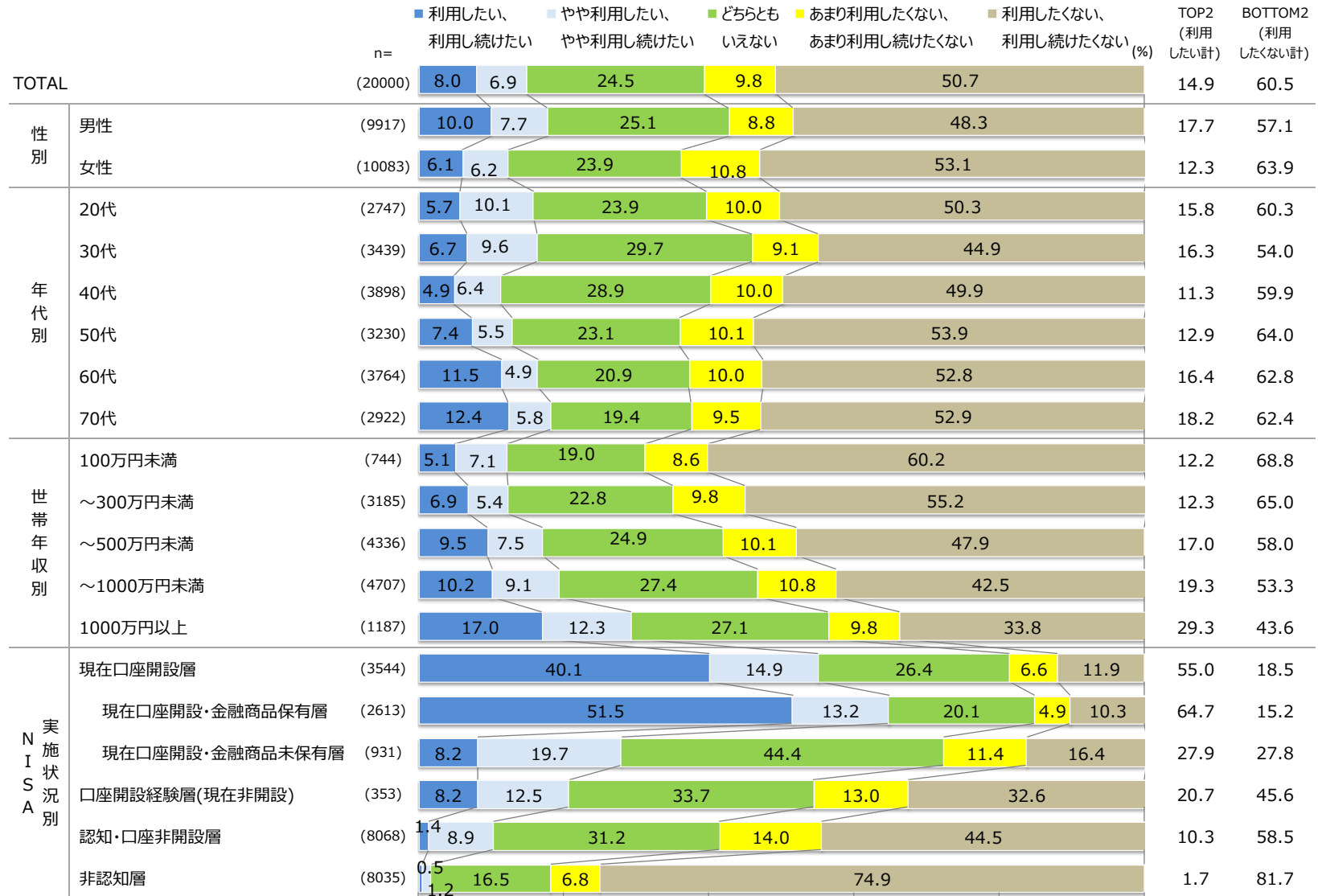


- NISA口座開設・金融商品未購入層のNISAでの金融商品購入検討のきっかけは、「専門知識を持つ人に教えてもらえたら」(19.7%)、「金融や投資を勉強して理解できたら」(13.6%)が上位にあがる。年代別ではどの項目も30代で他年代に比べ高くなる傾向。
- NISA認知・口座未開設層のNISA口座開設検討のきっかけは、「手取り収入が増えたら」(14.4%)、「金融や投資を勉強して理解できたら」(13.7%)が上位。若年層ほどどの項目も高くなる傾向。

2. NISA制度の浸透状況、今後の利用意向（5）

NISAの今後の利用意向・継続利用意向

(Q22①)



● NISAの利用・継続利用意向は、TOP2「利用したい計」が14.9%、BOTTOM2「利用したくない計」が60.5%との結果。

● TOP2「利用したい計」は世帯年収が上がるにつれ増加する傾向。

3. ジュニアNISA制度の浸透状況、今後の利用意向（1）

ジュニアNISAの認知/利用状況/積立投資実施状況/口座開設金融機関

(Q15②、Q16②、Q18②、Q19②)

【認知】(20歳未満の親族有ベース)

【利用状況】(20歳未満の親族がいる認知者ベース)

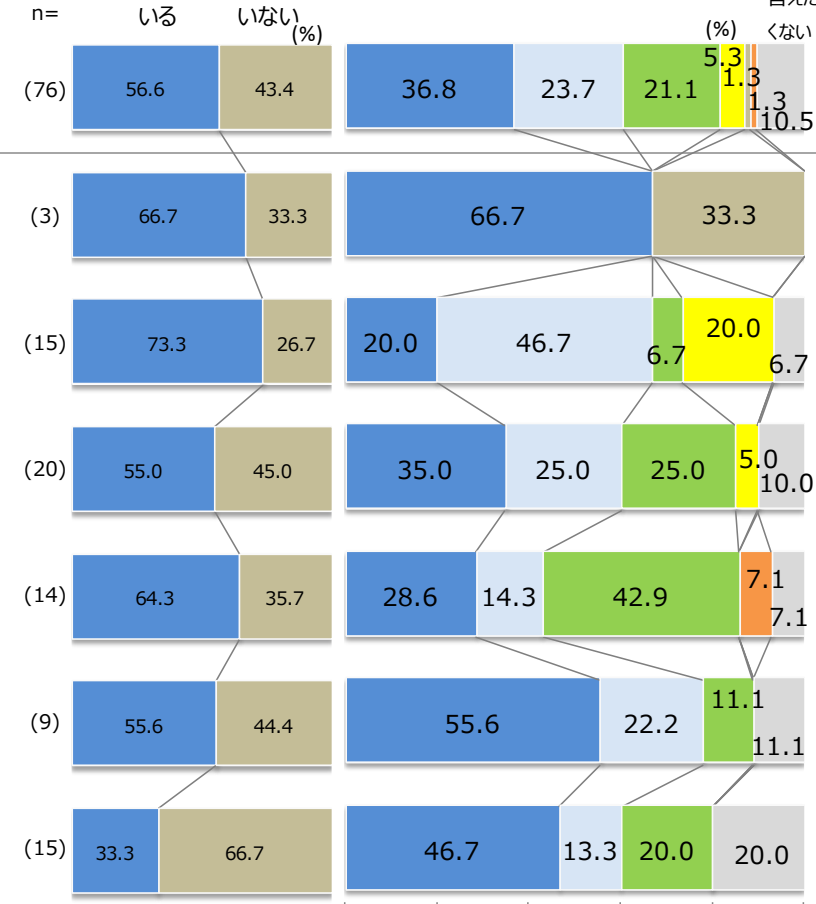
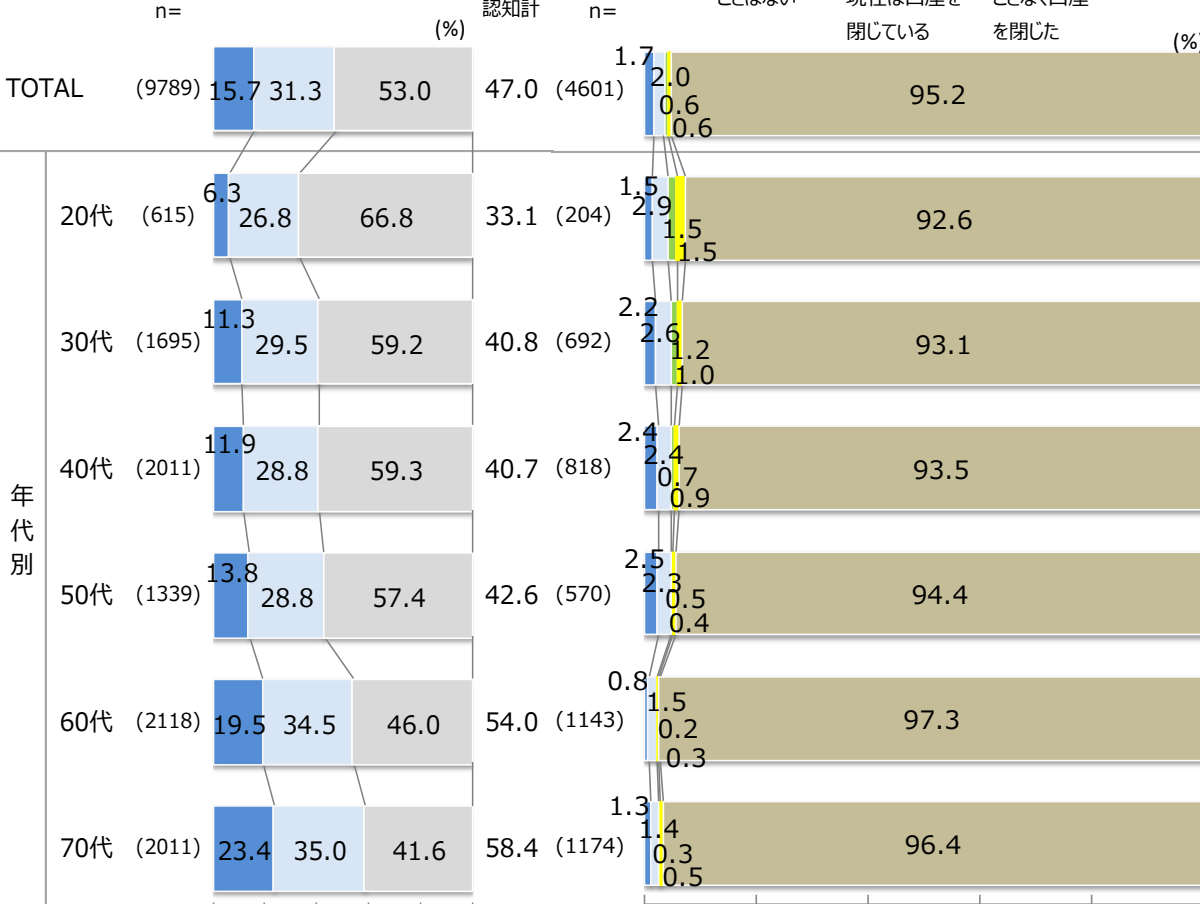
【積立投資実施状況/口座開設金融機関】

(20歳未満の親族がいる現在口座開設・金融商品保有者ベース)

■ 名前も 制度内容も 知っている
 ■ 名前を知っているが、制度内容はよく分からない
 ■ 知らない

■ 口座を開設して、現在も金融商品を保有している
 ■ 口座を開設したが、まだ金融商品を購入したことはない
 ■ 過去に口座開設し金融商品を保有していたが、現在は口座を閉じている
 ■ 過去に口座開設したが、金融商品を保有することなく口座を閉じた
 ■ 今までに口座を開いたことはない

■ 実施している
 ■ 実施していない
 ■ 証券会社
 ■ ネット証券
 ■ 銀行
 ■ 信託銀行
 ■ 信金
 ■ その他
 ■ わからない・答えたくない



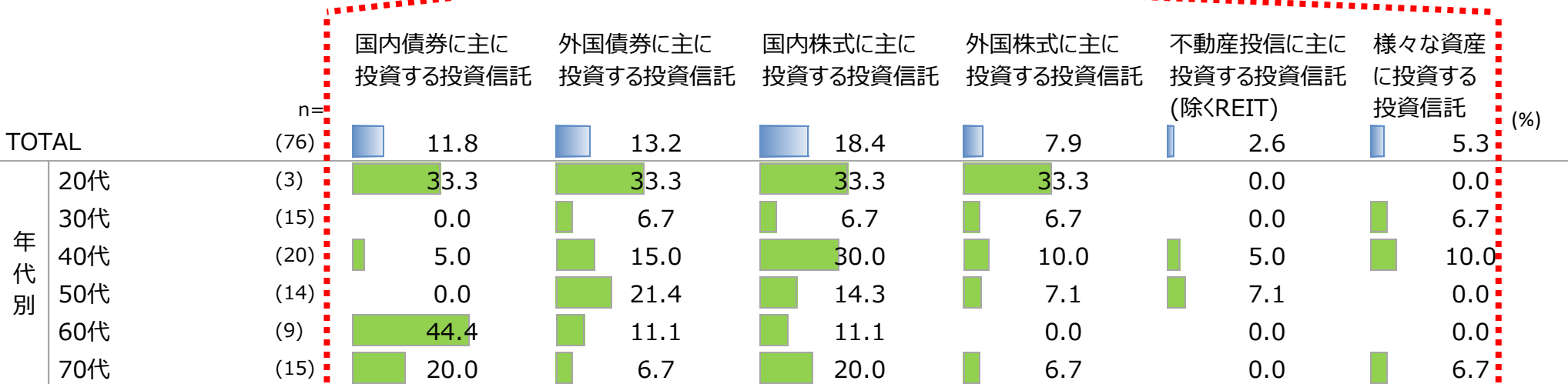
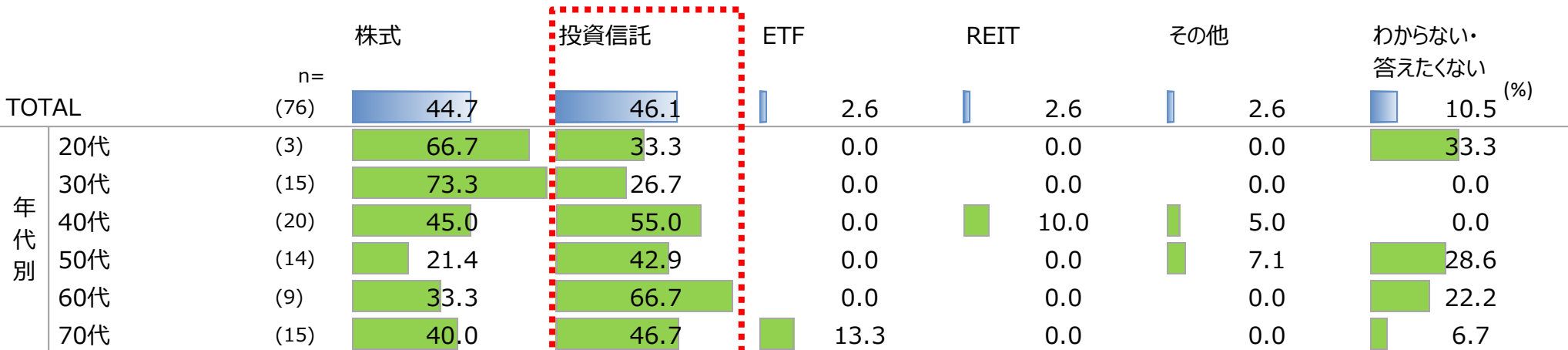
- ジュニアNISAの認知率(認知計)は47.0%とNISA(59.9%)に比べ低く、制度内容認知率は15.7%となる。またNISA同様、年代が上がるにつれ認知率は高まる。
- ジュニアNISA認知者のうち、95.2%が同制度での口座開設未経験となり、同制度で現在金融商品を保有者している者は1.7%と極めて少数に留まる。
- ジュニアNISAでの積立投資実施率は、56.6%とNISA(46.5%)に比べて高い。またジュニアNISA口座開設の金融機関は「証券会社」が36.8%で最も多く、「ネット証券」(23.7%)、「銀行」(21.1%)が続く。

3. ジュニアNISA制度の浸透状況、今後の利用意向（2）

ジュニアNISAでの保有金融商品（重複回答）

(Q17②)

(20歳未満の親族がいる、ジュニアNISAでの現在金融商品保有者ベース)



- ジュニアNISAの保有金融商品をカテゴリごとにみると、「投資信託」は46.1%で最多。「株式」が44.7%で続き、ETF、REITは共に2.6%に留まる。投資信託の中ではNISAと同様に、「国内株式に主に投資する商品」の保有率が18.4%と他商品に比べやや高い。

3. ジュニアNISA制度の浸透状況、今後の利用意向（3）

ジュニアNISA口座開設・金融商品未購入理由（重複回答）

(Q20②)

(20歳未満の親族がいる、ジュニアNISA口座開設・投資性商品未購入層ベース)

		どの商品を購入してよいかわからないから	経済状況など、商品購入や口座開設のタイミングを見定めているから	投資に回すお金がないから	年間の非課税投資限度額(80万円)が小さいから	株式や投資信託以外の商品(国債など)が購入できないから	非課税期間が短いから	金融機関に勧められて口座開設しただけだから	制度内容を知らないから	制度が複雑でよく理解できないから	投資の知識がないから/知識がないと難しそうだから	投資自体に関心がないから	既に十分な資産があり、投資は必要ないから	その他	特に理由はない	
TOTAL	n=(91)	23.1	17.6	17.6	11.0	9.9	8.8	7.7	5.5	4.4	4.4	4.4	1.1	1.1	19.8	
20代	(6)	33.3	33.3	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
30代	(18)	44.4	16.7	5.6	5.6	5.6	11.1	5.6	5.6	5.6	5.6	0.0	0.0	5.6	27.8	
40代	(20)	25.0	20.0	25.0	15.0	5.0	5.0	5.0	5.0	0.0	10.0	5.0	0.0	0.0	10.0	
50代	(13)	7.7	7.7	7.7	0.0	23.1	7.7	7.7	15.4	7.7	7.7	15.4	0.0	0.0	38.5	
60代	(17)	17.6	17.6	17.6	35.3	17.6	11.8	0.0	5.9	5.9	0.0	5.9	5.9	0.0	5.9	
70代	(17)	11.8	17.6	35.3	0.0	0.0	5.9	23.5	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	23.5	

ジュニアNISA口座未開設理由（重複回答）

(Q20②)

(20歳未満の親族がいる、ジュニアNISA口座未開設層ベース)

		投資に回すお金がないから	投資自体に関心がないから	制度内容を知らないから	投資の知識がないから/知識がないと難しそうだから	制度が複雑でよく理解できないから	どの商品を購入してよいかわからないから	口座開設の申込手続きが煩雑で面倒だから	年間の非課税投資限度額(80万円)が小さいから	経済状況など、商品購入や口座開設のタイミングを見定めているから	非課税期間が短いから	既に十分な資産があり、投資は必要ないから	株式や投資信託以外の商品(国債など)が購入できないから	その他	特に理由はない
TOTAL	n=(4380)	19.9	19.7	10.5	9.4	6.1	6.0	5.5	2.8	2.4	1.8	0.8	0.7	1.6	41.2
20代	(189)	22.8	21.2	24.9	20.1	12.7	9.5	5.3	2.6	1.6	1.1	1.6	0.0	1.6	32.8
30代	(644)	22.5	20.2	19.3	16.5	11.5	10.4	8.1	3.0	3.4	2.3	0.8	1.1	1.7	32.6
40代	(765)	25.8	18.8	14.4	12.7	6.8	8.1	5.8	2.4	2.4	2.1	0.8	0.4	1.7	32.9
50代	(538)	23.8	20.3	9.5	10.6	6.1	7.1	7.8	3.3	2.4	1.9	0.6	1.1	0.7	35.1
60代	(1112)	16.5	19.1	5.8	5.2	2.6	3.5	4.9	2.2	2.2	1.8	0.7	0.7	1.6	47.7
70代	(1132)	15.4	20.1	5.8	4.8	4.8	3.4	3.6	3.3	2.0	1.4	1.0	0.7	1.9	49.5

- ジュニアNISAでの金融商品未購入理由は、「どの商品を購入してよいかわからない」(23.1%)、「経済状況などタイミングを見定めている」「投資に回すお金がない」(共に17.6%)が上位にあがる。
- ジュニアNISA口座未開設理由は、「投資に回すお金がない」(19.9%)、「投資に関心がない」(19.7%)が上位にあがる。またNISAと同様に若年層ほど「投資知識がない」「制度内容を知らない」「どの商品を購入してよいかわからない」「制度が複雑で理解できない」が高く、知識のなさが理由として多くなる。

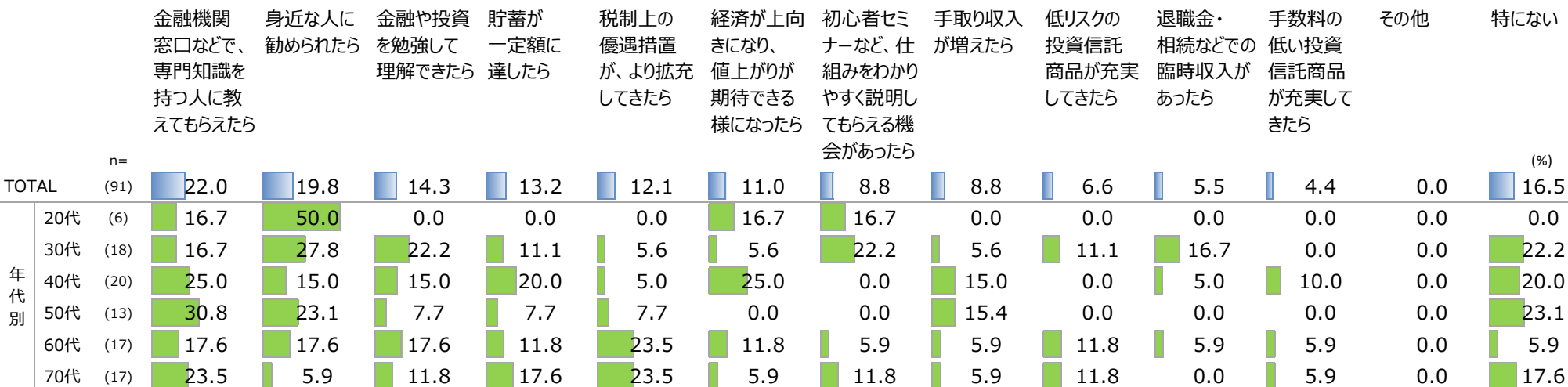
3. ジュニアNISA制度の浸透状況、今後の利用意向（4）



ジュニアNISAでの金融商品購入のきっかけ（重複回答）

(Q21②)

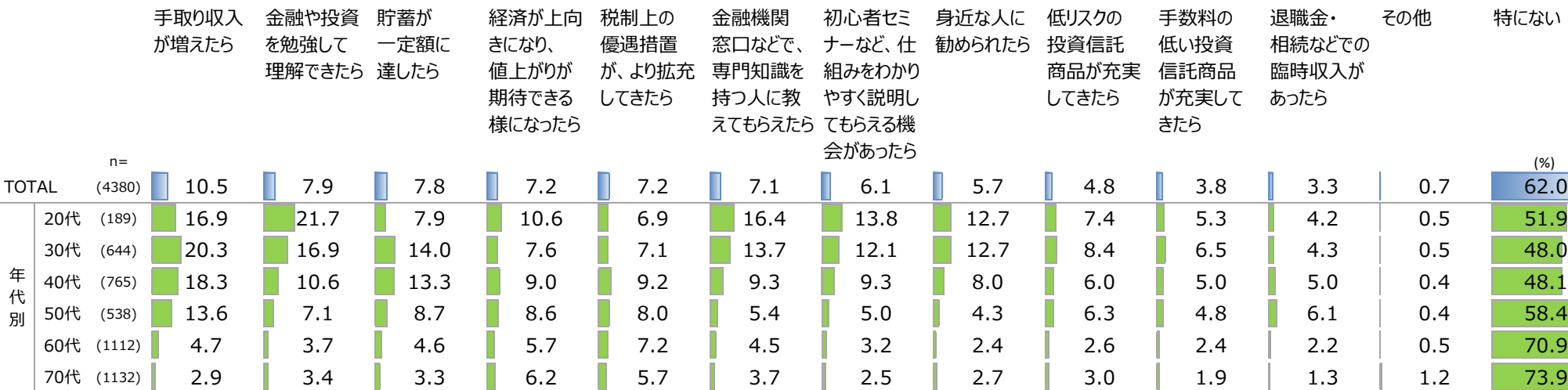
(20歳未満の親族がいる、ジュニアNISA口座開設・投資性商品未購入層ベース)



ジュニアNISA口座開設検討のきっかけ（重複回答）

(Q21②)

(20歳未満の親族がいる、ジュニアNISA口座未開設層ベース)



- ジュニアNISAでの金融商品購入検討のきっかけは、「専門知識を持つ人に教えてもらえたら」(22.0%)、「身近な人に勧められたら」(19.8%)が上位にあがる。
- ジュニアNISA口座開設検討のきっかけは、「手取り収入が増えたら」(10.5%)が最も高く、以下いずれの項目も10%に満たない反応。年代別で見ると、どの項目も40代以下の層で50代以上の層に比べて高くなる傾向。

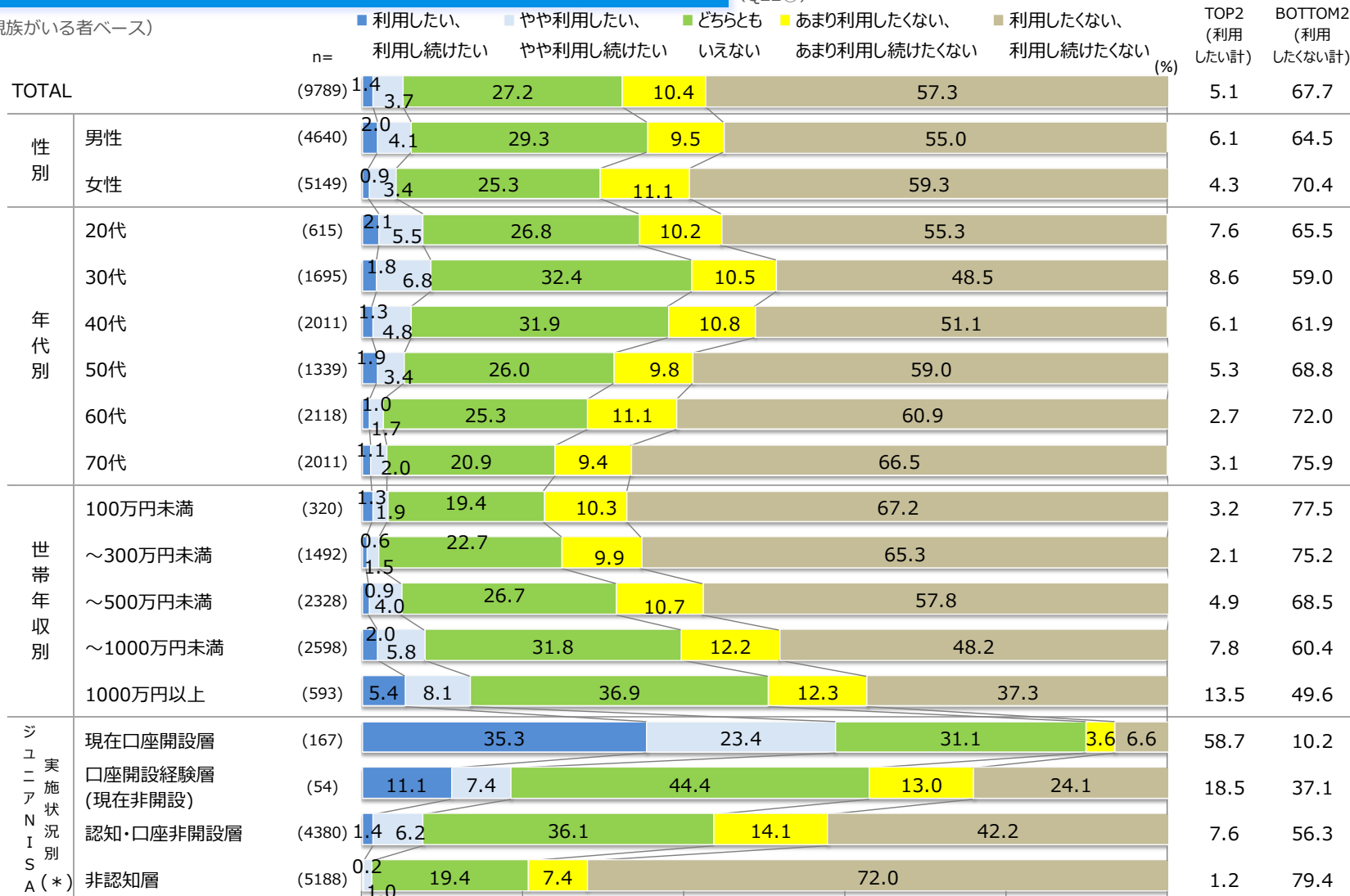
3. ジュニアNISA制度の浸透状況、今後の利用意向（5）



ジュニアNISAの今後の利用意向・継続利用意向

(Q22②)

(20歳未満の親族がいる者ベース)



* ジュニアNISA実施状況別の「現在口座開設層」は、「口座開設・現在金融商品保有層」と「口座開設・現在金融商品非保有層(口座開設したが金乳商品を購入していない層)」を含む。

- ジュニアNISAの利用・継続利用意向は、TOP2「利用したい計」が5.1%、BOTTOM2「利用したくない計」が67.7%との結果となり、NISAに比べ利用意向は低い (NISA TOP2:14.9%/BOTTOM2:60.5%)。
- TOP2「利用したい計」は若年層ほど、高年収層ほど増す傾向。また現在ジュニアNISA口座開設層では、TOP2「利用したい計」は58.7%となる。

4. 企業型確定拠出年金の浸透状況、今後の利用意向（1）

企業型確定拠出年金の認知/利用状況/マッチング拠出実施状況

(Q15③、Q16③、Q30)

【認知】

■ 名前も制度内容も知っている
 ■ 名前を知っているが、制度内容はよく分からない
 ■ 知らない

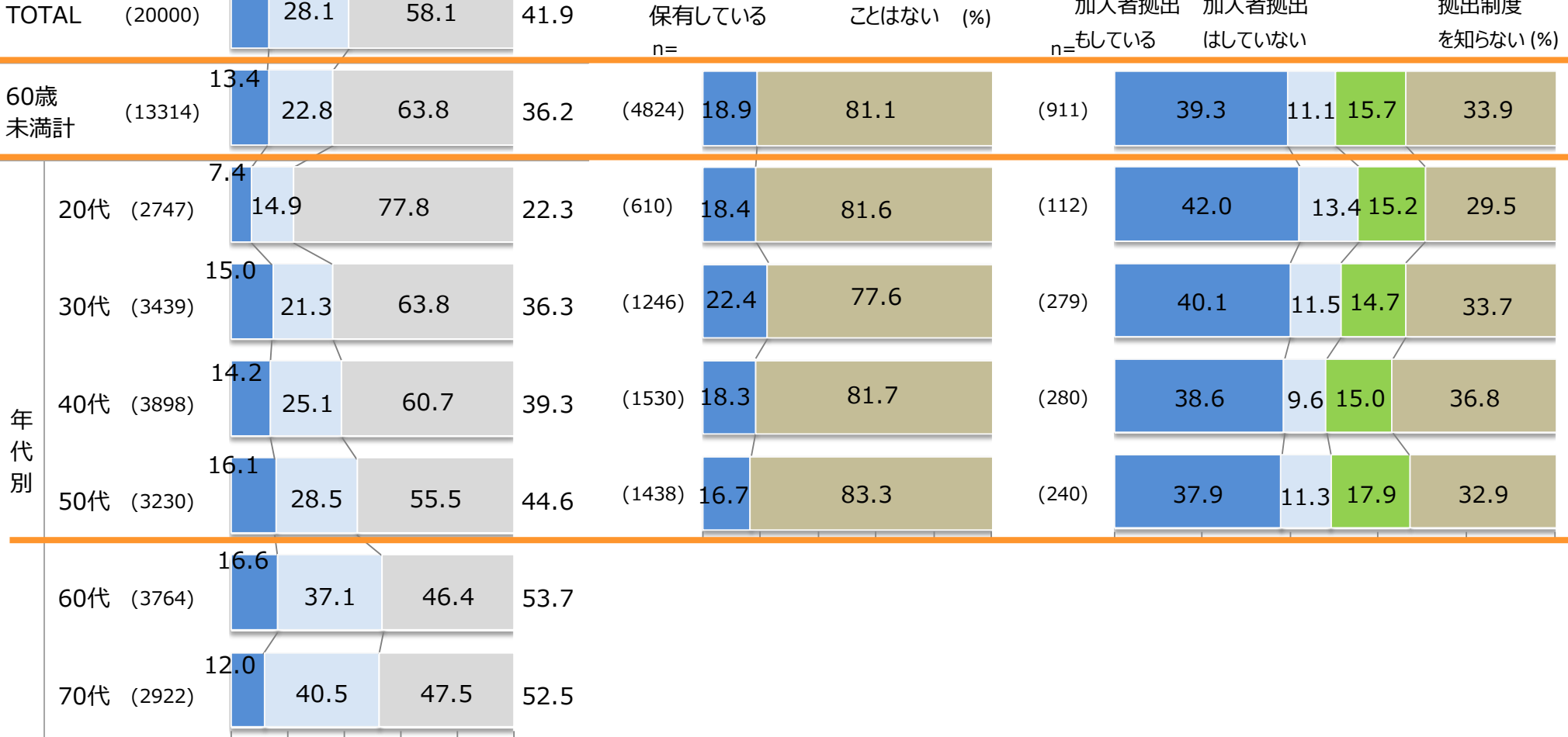
【利用状況】（60歳未満の認知者ベース）

■ 口座を開設して、現在も金融商品を保有している
 ■ 今までに口座を開設したことはない

【マッチング拠出実施状況】

（60歳未満の現在口座開設・金融商品保有者ベース）

■ 現在導入しており、加入者拠出もしている
 ■ 現在導入しているが、加入者拠出はしていない
 ■ 現在導入していない
 ■ わからない/マッチング拠出制度を知らない



- 企業型確定拠出年金の認知率(認知計)は41.9%。制度内容認知率は13.8%となる。制度内容認知率は20代で他年代に比べ低く、30～60代では同程度。
- 企業型確定拠出年金認知者のうち、同制度での現在金融商品保有者は18.9%となり、年代別では30代で最も多い。
- 企業型確定拠出年金加入者の39.3%が、マッチング拠出を実施している様子。一方で「わからない/マッチング拠出制度を知らない」も33.9%みられる。マッチング拠出実施者は、若年層ほどやや多くなる模様。

4. 企業型確定拠出年金の浸透状況、今後の利用意向（2）



企業型確定拠出年金での保有金融商品（重複回答）

(Q17③)

(60歳未満の、企業型確定拠出年金での現在金融商品保有者ベース)

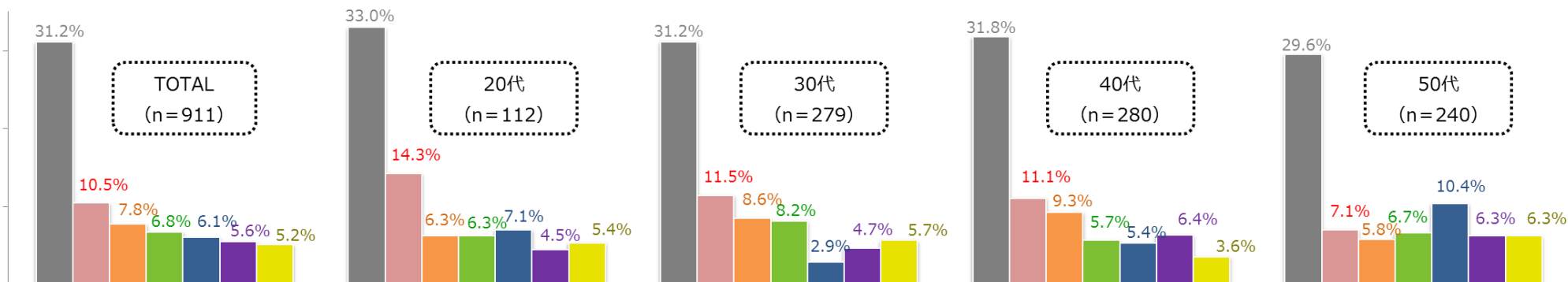
		定期預金	保険商品	投資 信託計 (*)	国内債券 に主に 投資する 投資信託	外国債券 に主に 投資する 投資信託	国内株式 に主に 投資する 投資信託	外国株式 に主に 投資する 投資信託	不動産投資 信託に主に 投資する 投資信託 (除くREIT)	様々な 資産に 投資する 投資信託	その他	わからない ・答えたく ない
TOTAL	n= (911)	48.4	23.1	55.1	31.1	22.0	34.8	24.1	4.7	8.8	2.3	12.2
年代別	20代 (112)	52.7	27.7	56.3	31.3	25.0	32.1	26.8	6.3	7.1	1.8	10.7
	30代 (279)	53.8	23.3	54.1	31.5	25.1	36.6	28.3	6.5	7.2	2.2	13.3
	40代 (280)	45.7	24.6	55.0	34.3	23.2	35.0	24.3	3.6	9.6	2.9	11.4
	50代 (240)	43.3	18.8	55.8	26.7	15.4	33.8	17.9	3.3	10.4	2.1	12.5

* 投資信託計・・・「国内債券に主に投資～様々な資産に投資する投資信託」のいずれかを保有している者の割合

<年代別での金融商品保有種類別比率>

金融商品の保有を「定期預金・保険」（定期預金か保険商品保有）、「債券投信」（国内か海外債券に主に投資する投信保有）、「株式投信」（国内か海外株式に主に投資する投信保有）、「不動産投信」（不動産投信に主に投資する投信）、「その他」（様々な資産に投資する投信かその他商品保有）に分類して併用状況を確認した。

■「定期預金・保険」 (1種類) ■「定期預金・保険」 + 「債券投信」+ 「株式投信」(3種類) ■「債券投信」 + 「株式投信」 (2種類) ■「定期預金・保険」 + 「株式投信」 (2種類) ■「株式投信」 (1種類) ■「債券投信」 (1種類) ■「定期預金・保険」 + 「債券投信」 (2種類)



- 企業型確定拠出年金での保有金融商品は、「投資信託計」(55.1%)が最多。また投資信託商品の中では「国内株式に主に投資」(34.8%)、「国内債券に主に投資」(31.1%)が多い。
- 年代別の保有金融商品を種類別で見ると、どの年代も「定期預金・保険」1種類の保有が30%前後で最も高く、20～40代では「定期預金・保険」+「債券投信」+「株式投信」と3種類での分散保有が続く。それに対して50代では「株式投信」1種類の保有が続くのが特徴的。

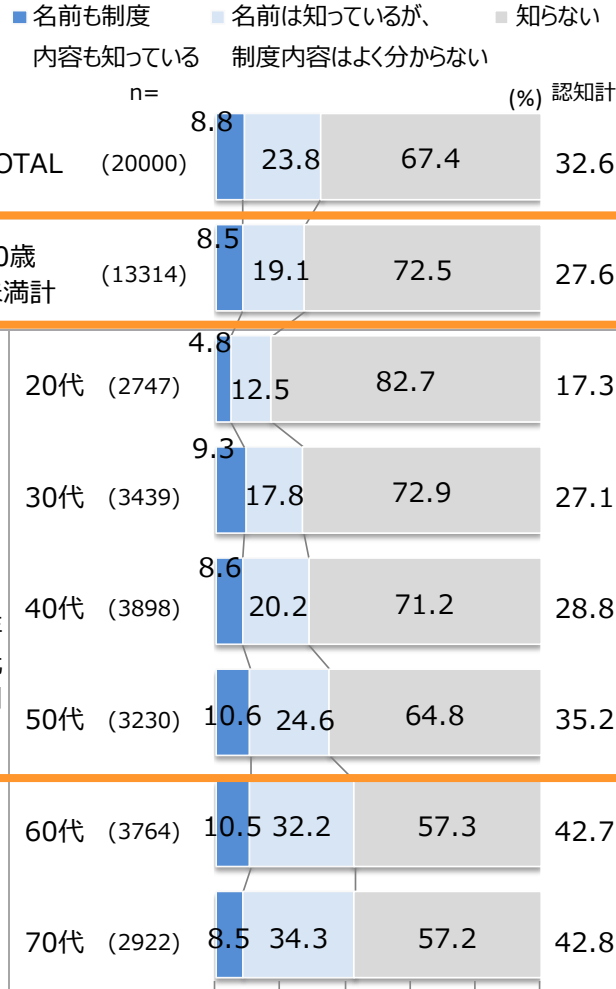
5. 個人型確定拠出年金 (iDeCo) の浸透状況、今後の利用意向 (1)



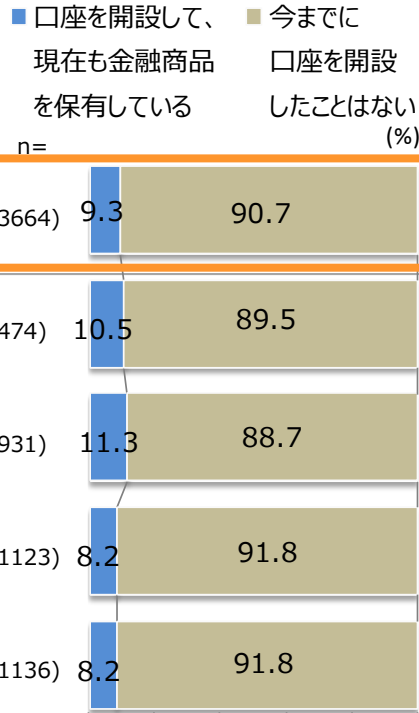
個人型確定拠出年金 (iDeCo) の認知/利用状況/利用対象者拡大の認知と興味度

(Q15④、Q16④、Q29)

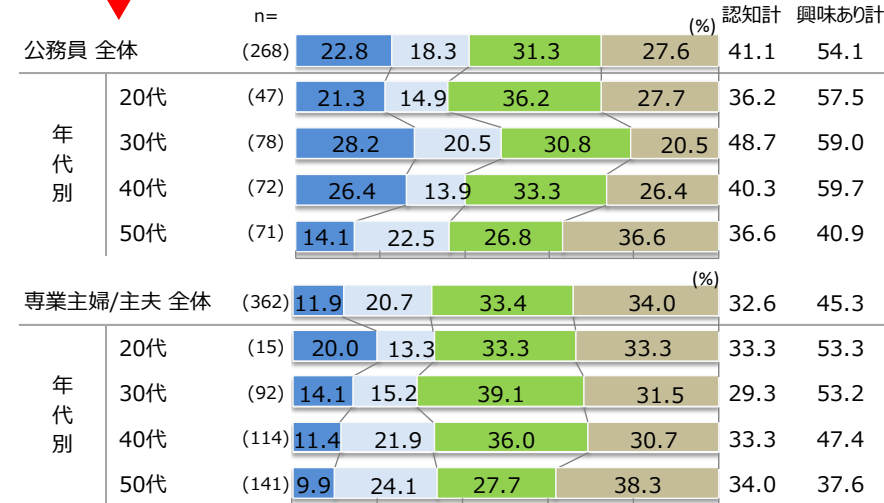
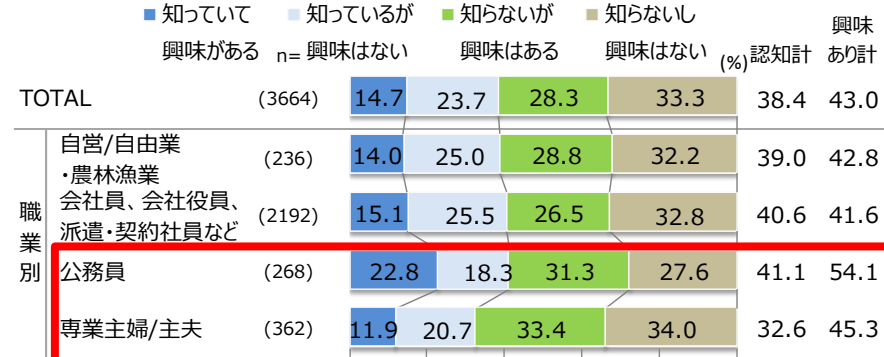
【認知】



【利用状況】(60歳未満の認知者ベース)



【利用対象者拡大の認知と興味度】(60歳未満の認知者ベース)



- 個人型確定拠出年金(iDeCo)の認知率(認知計)は32.6%、制度内容認知率は8.8%と、企業型(認知計:41.9%、商品内容認知:13.8%)に比べやや低い。高齢層ほど認知率は高いが、制度内容認知率は年代間で大きな差はみられない。
- 個人型確定拠出年金認知者のうち、90.7%が口座未開設。現在金融商品保有者は9.3%に留まる。また現在金融商品保有者は30代で最多となる。
- 同制度利用者拡大についての認知率(認知計)は、38.4%に留まる。また利用者拡大について興味があるのは43.0%との結果。職業間で認知率に大きな差はみられないが、興味度は拡大対象の「公務員」「専業主婦/主夫」で高い。また「公務員」「専業主婦/主夫」を年代別に分けると、「専業主婦/主夫」での興味度は、若年層ほど高くなる。

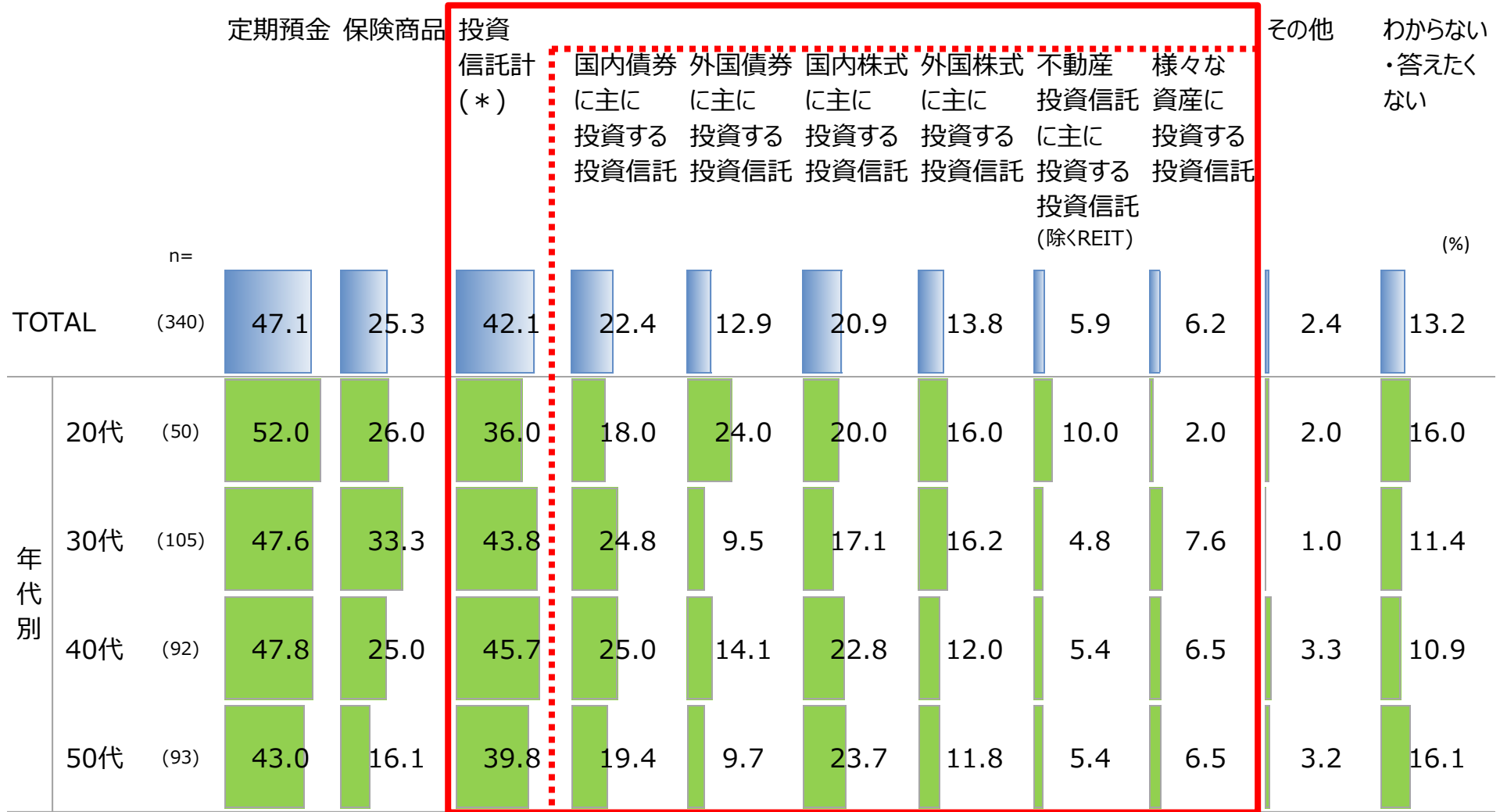
5. 個人型確定拠出年金 (iDeCo) の浸透状況、今後の利用意向 (2)



個人型確定拠出年金 (iDeCo) での保有金融商品 (重複回答)

(Q17④)

(60歳未満の、個人型確定拠出年金での現在金融商品保有者ベース)



* 投資信託計・・・「国内債券に主に投資～様々な資産に投資する投資信託」のいずれかを保有している者の割合

- 個人型確定拠出年金での保有金融商品は、「定期預金」(47.1%)が最も多く、「投資信託計」(42.1%)が上位に続く。企業型に比べ「投資信託」の保有率は全体的に低くなる傾向。
- 年代別でみると、どの年代でも「定期預金」が最も高い。また20代では「外国債券／不動産に主に投資する投資信託」が他年代に比べ高く、20～30代では「外国株式に主に投資する投資信託」、40～50代では「国内株式に主に投資する投資信託」が相対的に高くなる。

5. 個人型確定拠出年金 (iDeCo) の浸透状況、今後の利用意向 (3)



個人型確定拠出年金 (iDeCo) の特徴認知 (重複回答)

(Q27①)

(60歳未満の個人型確定拠出年金認知者ベース)

掛金が全額所得控除される
原則60歳まで引出しできない
受け取る時も税制優遇措置がある
資産の運用は加入者自身で行い、受け取る額は運用成績により変動する
通常、金融商品の運用益には税金がかかるが、非課税で再投資される
口座管理手数料などがかかる
運用対象には元本を保証する運用商品もある
転職・離職の際にそれまで積み立てた資産を持ち運ぶことができる
積立期間は10年以上必要である
商品は年1回、預け替えができる
加入対象者によって掛金の上限などが異なる
口座は70歳まで延期できる
わからない・特にな

	n=	26.5	17.1	15.4	14.3	14.0	11.7	10.2	10.2	9.9	7.0	6.5	3.7	(%)	
TOTAL	(3664)	26.5	17.1	15.4	14.3	14.0	11.7	10.2	10.2	9.9	7.0	6.5	3.7	56.5	
年代別	20代	(474)	25.9	14.1	13.5	17.9	18.1	11.0	9.9	11.6	10.3	9.1	7.4	4.6	51.9
	30代	(931)	27.4	17.4	17.3	20.0	15.1	12.9	11.5	11.9	13.1	6.6	7.6	3.9	54.8
	40代	(1123)	28.0	15.8	14.3	17.7	13.0	12.4	10.1	10.9	10.2	7.0	7.3	3.3	56.6
	50代	(1136)	24.5	13.9	12.2	13.9	12.2	10.2	8.5	7.4	7.7	6.5	4.5	3.6	59.7
職業別	自営/自由業・農林漁業	(236)	23.3	16.5	13.1	10.6	14.0	9.3	9.3	5.9	8.1	6.4	5.9	3.0	58.9
	会社員、会社役員、派遣・契約社員など	(2192)	28.5	18.7	16.9	15.9	16.0	12.1	11.9	12.2	10.7	8.3	7.2	4.4	54.8
	会社員、会社役員、派遣・契約社員など (企業型確定拠出年金現在非加入層)	(1612)	25.4	15.4	14.0	13.2	13.2	10.3	9.0	10.0	9.6	7.4	6.1	3.3	59.6
	公務員	(268)	26.9	16.4	18.7	15.3	16.4	13.1	10.8	7.1	11.6	4.5	7.1	2.6	55.6
	専業主婦/主夫	(362)	23.2	13.5	13.8	12.2	7.5	9.9	6.1	7.7	9.4	5.8	4.7	1.4	60.5

- 個人型確定拠出年金の特徴では、「掛け金が全額所得控除される」(26.5%)、「原則60歳まで引出しできない」(17.1%)、「受け取る時も税制優遇措置がある」(15.4%)が上位に続く。一方で「わからない・特にな」が56.5%と高く、まだまだ内容が認知されていない様子がうかがえる。
- 職業別でみると、「自営/自由業・農林漁業」「専業主婦/主夫」で他層に比べ、どの項目も比較的認知が低くなる。

5. 個人型確定拠出年金 (iDeCo) の浸透状況、今後の利用意向 (4)



個人型確定拠出年金 (iDeCo) の魅力点 (重複回答)

(Q27②)

(60歳未満の者ベース)

	掛金が 全額所 得控除 される	受け取る ときも 税制優 遇措置 がある	通常、金融 商品の運用 益には税金が かかるが、 非課税で 再投資される	運用 対象には 元本を 保証する 運用商 品もある	転職・離職 の際にそれ まで積み立 てた資産を 持ち運ぶ ことができる	商品は 年1回、 預け替え ができる	資産の運用 は加入者 自身で行い、 受け取る額は 運用成績に より変動する	口座は 70歳 まで延期 できる	原則60 歳まで 引出し できない	積立期間は 10年以上 必要である	加入対象者 によって 掛金の上限 などが異なる	口座管 理手数 料など がかかる	わから ない・ 特にな い	(%)
TOTAL	17.2	9.4	7.8	6.1	3.6	3.3	2.1	1.6	1.4	1.2	0.8	0.6	73.9	
性別														
男性	16.9	9.0	8.7	5.6	3.3	3.1	2.6	1.4	1.5	1.5	1.0	0.8	73.4	
女性	17.4	9.8	6.9	6.6	4.0	3.5	1.7	1.9	1.4	0.9	0.7	0.4	74.5	
年代別														
20代	15.2	7.3	7.0	4.5	3.8	3.3	2.0	1.6	1.3	1.1	0.9	0.6	76.4	
30代	19.8	10.1	8.7	7.1	4.5	3.5	2.9	1.4	1.5	1.5	0.6	0.7	71.3	
40代	16.8	9.3	7.3	6.5	3.4	2.9	2.1	1.5	1.7	1.2	0.8	0.5	74.4	
50代	16.5	10.6	8.1	5.8	2.7	3.5	1.5	2.1	1.3	0.8	1.0	0.7	74.0	
世帯年収別														
100万円未満	11.2	4.7	5.3	3.5	2.6	3.0	2.8	1.8	1.4	1.4	0.2	0.8	79.7	
~300万円未満	13.9	8.4	6.6	4.5	3.9	2.9	1.6	1.8	1.4	1.0	1.0	0.3	78.5	
~500万円未満	18.1	8.6	7.0	6.6	4.0	3.5	2.3	1.5	1.9	1.4	1.3	0.9	72.5	
~1000万円未満	22.3	12.6	10.4	8.2	4.2	4.4	2.9	2.0	1.6	1.5	0.6	0.6	65.8	
1000万円以上	29.6	18.9	17.2	9.5	5.5	5.4	3.7	3.0	2.4	1.9	1.1	1.4	55.7	
職業別														
自営/自由業・農林漁業	17.0	9.9	8.4	5.5	1.3	3.5	2.5	2.0	1.2	2.0	1.2	0.5	75.0	
会社員、会社役員、派遣・契約社員など	18.9	10.3	8.8	6.3	4.3	3.4	2.6	1.7	1.6	1.3	0.8	0.7	71.0	
会社員、会社役員、派遣・契約社員など (企業型確定拠出年金現在非加入層)	16.4	8.6	6.9	5.8	3.9	3.0	2.0	1.5	1.3	1.2	0.8	0.6	74.8	
公務員	21.4	12.2	10.2	9.2	2.4	3.1	1.4	1.3	2.1	1.8	1.1	0.4	68.3	
専業主婦/主夫	16.1	9.1	6.4	6.7	3.2	3.0	1.3	1.2	0.9	0.9	0.5	0.4	76.4	
個人型実施状況別														
口座開設層	39.4	26.8	23.8	12.6	9.1	11.8	15.0	4.4	7.4	4.1	2.6	3.2	27.1	
認知・口座非開設層	30.0	17.7	15.4	10.6	6.3	4.7	3.6	2.3	2.6	1.9	0.9	0.9	54.0	
非認知	12.0	5.9	4.6	4.3	2.5	2.5	1.2	1.3	0.8	0.8	0.7	0.4	82.4	

● 個人型確定拠出年金の魅力点では、「掛け金が全額所得控除される」(17.2%)が突出。

● どの属性で見ても「掛け金が全額所得控除される」が最も高くなる。

5. 個人型確定拠出年金 (iDeCo) の浸透状況、今後の利用意向 (5)



個人型確定拠出年金 (iDeCo) の口座開設・投資性商品未購入理由及び口座未開設理由 (重複回答)

(Q25)

(60歳未満の口座開設・投資性商品未購入、口座未開設層ベース)

		投資に回す お钱がない から	制度の内容 を知らない から	投資知識が ないから/ 知識がない と難しそう だから	投資は元本 が保証され ないから	制度が複雑 でよく理解 できないから	どの金融 商品を購入 したらよいか わからない から	企業型確 定拠出年 金に加入 しているの で	口座開設の 申込手続き が煩雑で 面倒だから	投資したい 金融商品 がないから	口座開設 可能期間が 短いから	既に十分な 資産があり 、投資は必 要ないから	金融機関に 勧められて 口座開設 しただけ だから	その他	特に理由 はない	(%)
TOTAL	n= (3470)	20.8	15.6	12.5	12.2	10.2	9.7	9.2	5.3	4.3	1.8	0.8	0.1	1.3	36.0	
年代別	20代 (448)	20.8	21.2	16.1	9.6	13.4	10.3	8.7	4.7	4.7	1.8	0.4	0.0	1.3	34.6	
	30代 (872)	21.7	17.5	13.3	13.1	11.5	9.5	11.9	6.5	5.4	2.1	0.7	0.1	1.4	33.6	
	40代 (1069)	21.2	15.9	12.1	12.3	9.2	9.9	8.8	5.3	3.8	1.8	0.7	0.3	1.7	34.1	
	50代 (1081)	19.6	11.3	10.8	12.7	8.9	9.5	7.7	4.4	3.6	1.8	1.2	0.0	0.7	40.3	

個人型確定拠出年金 (iDeCo) での投資性商品購入及び口座開設検討のきっかけ (重複回答)

(Q26)

(60歳未満の口座開設・投資性商品未購入、口座未開設層ベース)

		投資に回す お钱がで きたら	金融や投資 を勉強して 理解できたら	手取り収入 が増えたら	金融機関の 窓口などで、 専門知識を 持つ人に教 えてもらえたら	初心者向け セミナーなど、 仕組みをわかり やすく説明して もらえる機会が あったら	制度や規約が 改訂され、 企業型確定拠 出年金加入者 でも加入できる 様になったら	経済が 上向きになり、 値上がり 期待できる 様になったら	身近な人に 勧められたら	投資したい 金融商品が ラインナップ されたら	セカンドライフ を考えるよう になったら	その他	特にない	(%)
TOTAL	n= (3470)	24.1	14.6	14.2	11.0	10.6	9.6	8.2	7.9	5.6	5.2	0.7	43.7	
年代別	20代 (448)	25.2	19.6	16.1	17.0	15.0	12.5	9.2	13.8	6.3	5.4	0.7	36.8	
	30代 (872)	27.3	17.8	17.1	13.5	12.5	11.2	9.5	10.9	6.7	5.7	0.7	40.1	
	40代 (1069)	23.3	13.1	16.3	9.9	9.6	8.6	7.9	6.2	6.0	5.0	0.6	42.3	
	50代 (1081)	22.0	11.5	9.1	7.7	8.1	8.1	7.2	4.6	4.3	4.9	0.7	50.8	

- 個人型確定拠出年金で投資性商品(定期預金・保険を除く商品)の未購入の理由や、口座未開設の理由では、「投資に回すお钱がないから」(20.8%)、「制度内容を知らないから」(15.6%)が上位。
- 個人型確定拠出年金で投資性商品(定期預金・保険を除く商品)購入や、口座開設検討のきっかけでは、「投資に回すお钱ができたら」(24.1%)が最も高く、「金融や投資を勉強して理解できたら」(14.6%)、「手取り収入が増えたら」(14.2%)が上位に続く。

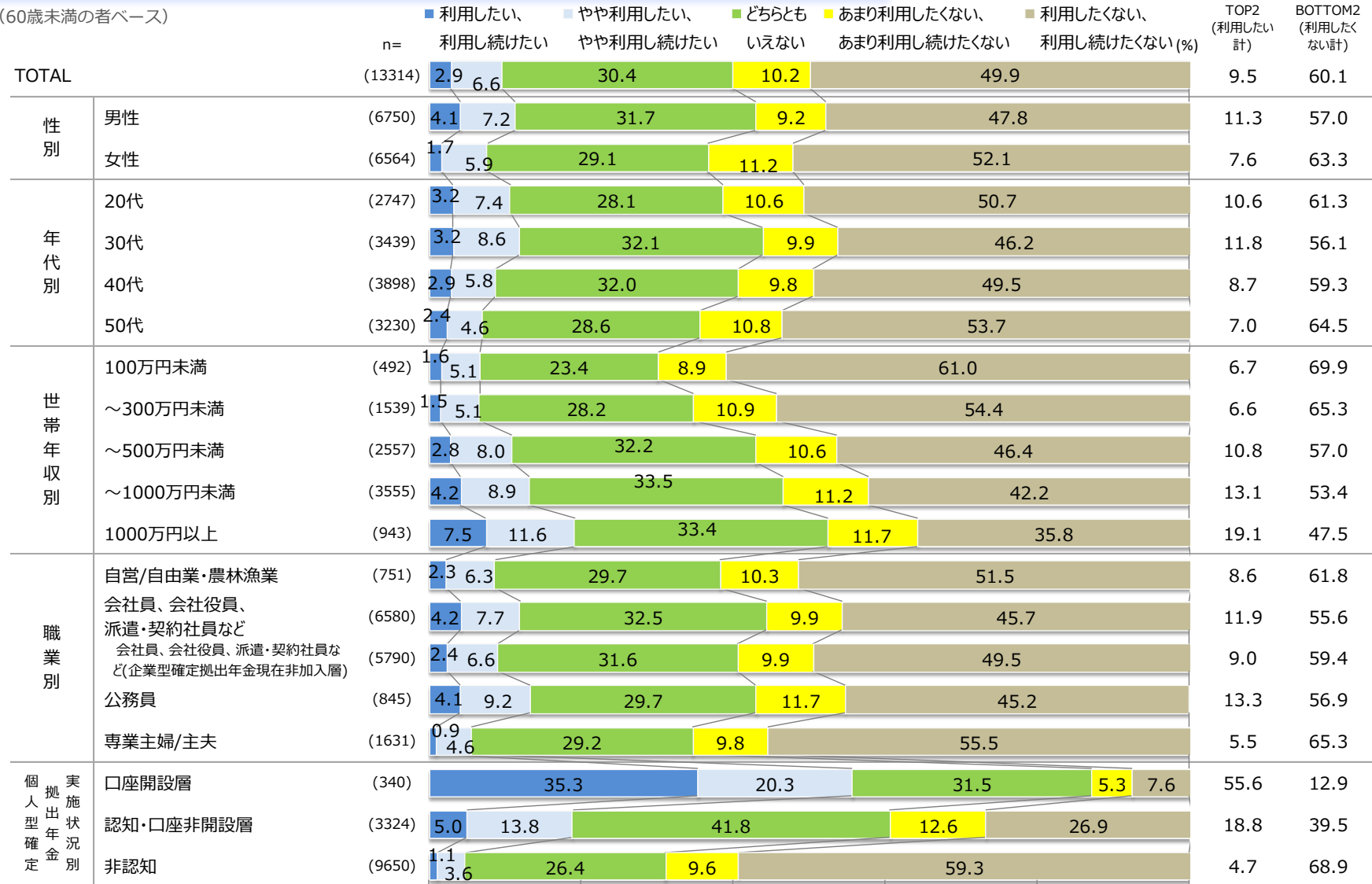
5. 個人型確定拠出年金 (iDeCo) の浸透状況、今後の利用意向 (6)



個人型確定拠出年金 (iDeCo) の今後の利用意向・継続利用意向

(Q28)

(60歳未満の者ベース)



● 個人型確定拠出年金の利用意向は、TOP2「利用したい計」が9.5%、BOTTOM2「利用したくない計」が60.1%との結果。

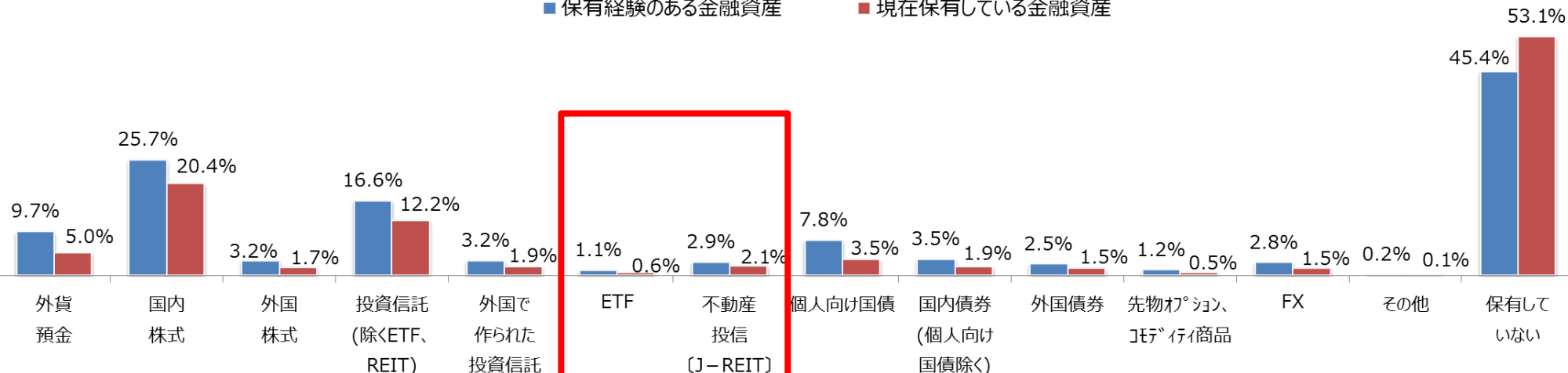
● TOP2「利用したい計」は相対的に30代以下で高く、現在口座開設層では55.6%に留まる。

6. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向（1）

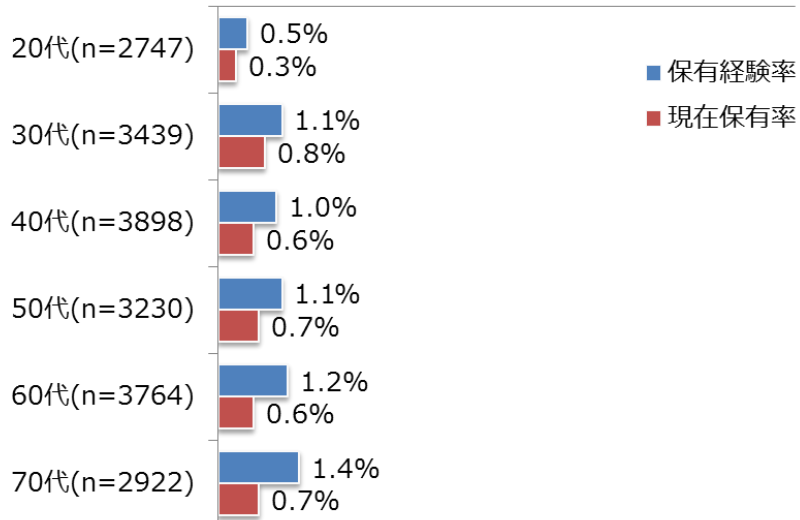
投資信託の保有状況

(Q6 ①②)

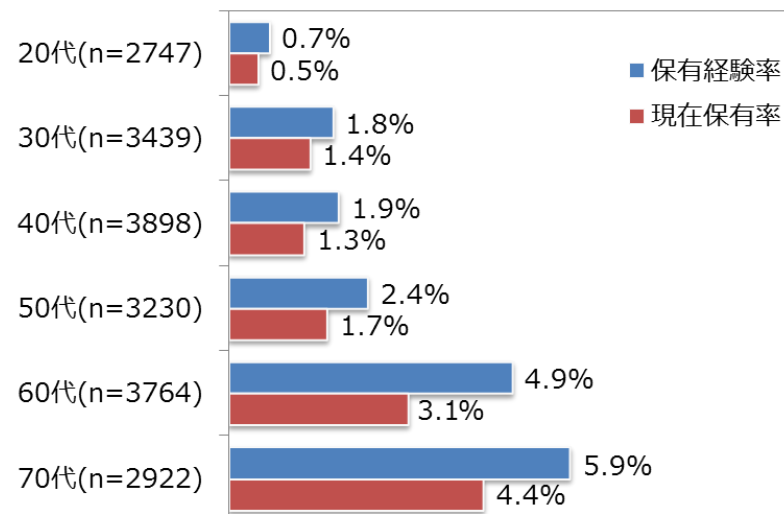
■ 保有経験のある金融資産 ■ 現在保有している金融資産



<ETF 年代別保有経験/現在保有率>



<J-REIT 年代別保有経験率/現在保有率>

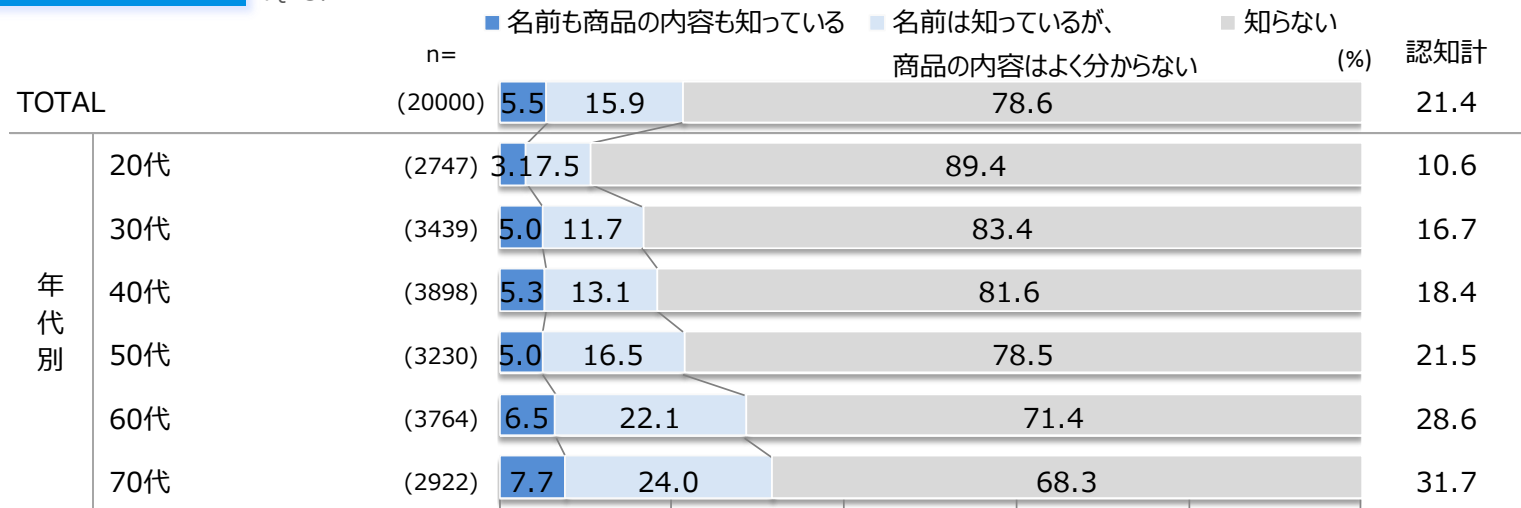


- ETF、J-REITの保有経験率は1.1%、2.9%、現在保有率は0.6%、2.1%に留まる。
- ETFの保有率は年代間で大きな差はないが、J-REITは高齢層ほど保有経験率、現在保有率ともに高くなる。

6. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向（2）

ETFの認知

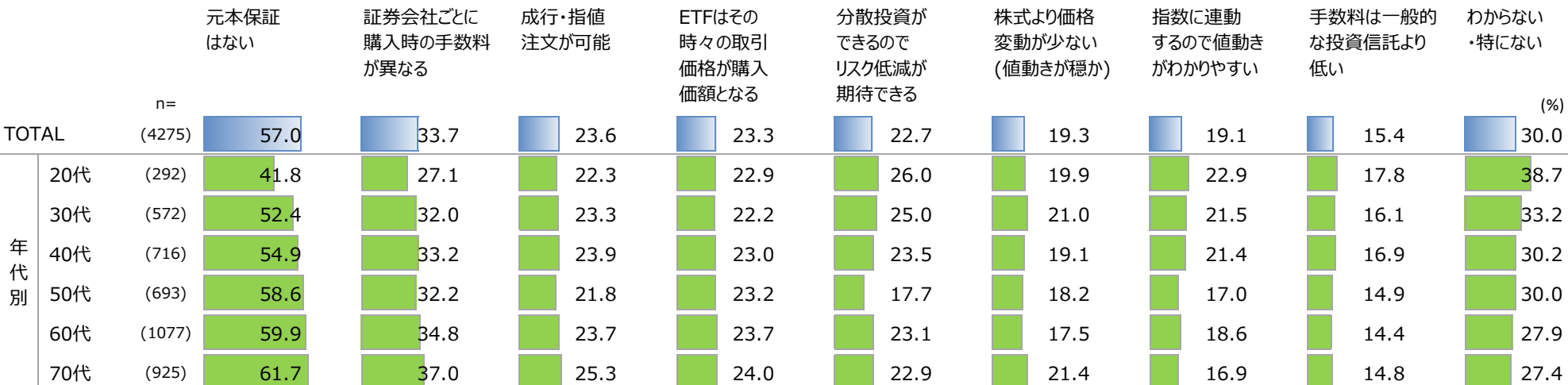
(Q8①)



ETFの特徴認知（重複回答）

(Q9①)

(ETF認知者ベース)



- ETFの認知率(認知計)は21.4%。また「商品内容認知」は5.5%に留まる。年代が上がるにつれ認知率は高まる傾向。
- ETFの特徴の認知は「元本保証はない」(57.0%)が最も高く、「証券会社ごとに購入時手数料が異なる」(33.7%)が続く。年代別では高齢層ほど「元本保証はない」「証券会社ごとに購入時手数料が異なる」の認知が高い。

6. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向（3）



ETFの魅力点（重複回答）

(Q9②)

		n=	分散投資ができるので リスク低減が期待できる	株式より 価格変動が少ない	手数料は一般的な 投資信託より低い	指数に連動 するので値動き がわかりやすい	成行・指値 注文が可能	ETFはその 時々の取引 価格が購入 価額となる	元本保証 はない	証券会社ごとに 購入時の手数料 が異なる	わからない ・特でない	(%)
TOTAL		(20000)	10.8	9.7	6.7	5.8	4.5	3.1	2.5	2.5		77.0
性別	男性	(9917)	11.1	8.7	7.2	6.6	5.6	3.9	3.3	3.3		74.8
	女性	(10083)	10.6	10.6	6.3	5.1	3.4	2.4	1.7	1.7		79.1
年代別	20代	(2747)	10.8	10.0	6.2	6.1	3.9	2.4	2.2	2.0		78.9
	30代	(3439)	12.8	11.2	7.9	7.0	4.5	3.2	2.6	2.4		74.6
	40代	(3898)	10.7	8.8	6.2	5.5	4.0	3.2	1.8	2.2		78.3
	50代	(3230)	10.2	9.3	7.2	5.3	4.4	3.1	2.2	2.2		77.9
	60代	(3764)	10.0	9.3	6.3	5.7	4.8	3.1	2.2	2.4		77.2
	70代	(2922)	10.4	9.6	6.7	5.4	5.4	3.6	4.2	3.9		74.7
世帯年収別	100万円未満	(744)	7.5	7.8	3.6	5.0	2.4	1.7	2.3	1.5		80.9
	～300万円未満	(3185)	9.3	8.4	5.6	4.7	3.5	2.6	2.6	2.3		79.8
	～500万円未満	(4336)	11.9	10.6	6.9	5.9	5.3	3.4	2.9	2.6		74.8
	～1000万円未満	(4707)	14.6	12.7	9.5	7.9	5.8	4.0	2.9	3.6		69.4
	1000万円以上	(1187)	19.7	15.4	12.6	12.7	9.7	6.8	3.6	4.7		60.1
保有状況別	現在保有層	(122)	49.2	20.5	51.6	53.3	39.3	36.1	9.0	11.5		9.8
	保有経験層(現在非保有)	(90)	35.6	21.1	32.2	36.7	31.1	21.1	3.3	8.9		18.9
	認知・保有未経験層(金融資産保有経験有)	(2919)	27.6	19.6	18.0	16.4	11.6	9.4	5.0	7.4		43.2
	認知・保有未経験層(金融資産保有経験無)	(767)	16.3	14.5	8.6	8.3	5.0	3.4	2.3	3.0		69.4
	非認知層(金融資産保有経験有)	(4087)	13.2	12.5	7.9	5.7	6.5	2.8	3.2	3.0		71.0
	非認知層(金融資産保有経験無)	(8151)	6.1	6.9	3.4	2.9	1.7	1.3	1.7	0.9		87.4

- ETFの魅力点は「分散投資できるのでリスク低減が期待できる」(10.8%)、「株式より価格変動が少ない」(9.7%)と、リスクの低さに関する特徴が上位にあがる。
- 現在保有層では「指数連動するので値動きが分かりやすい」「手数料は一般的な投資信託より低い」が50%以上と高く、特に魅力を感じている様子。

6. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向（4）



ETFの不満点（重複回答）

(Q10④)

(ETF保有経験者および内容認知者ベース)

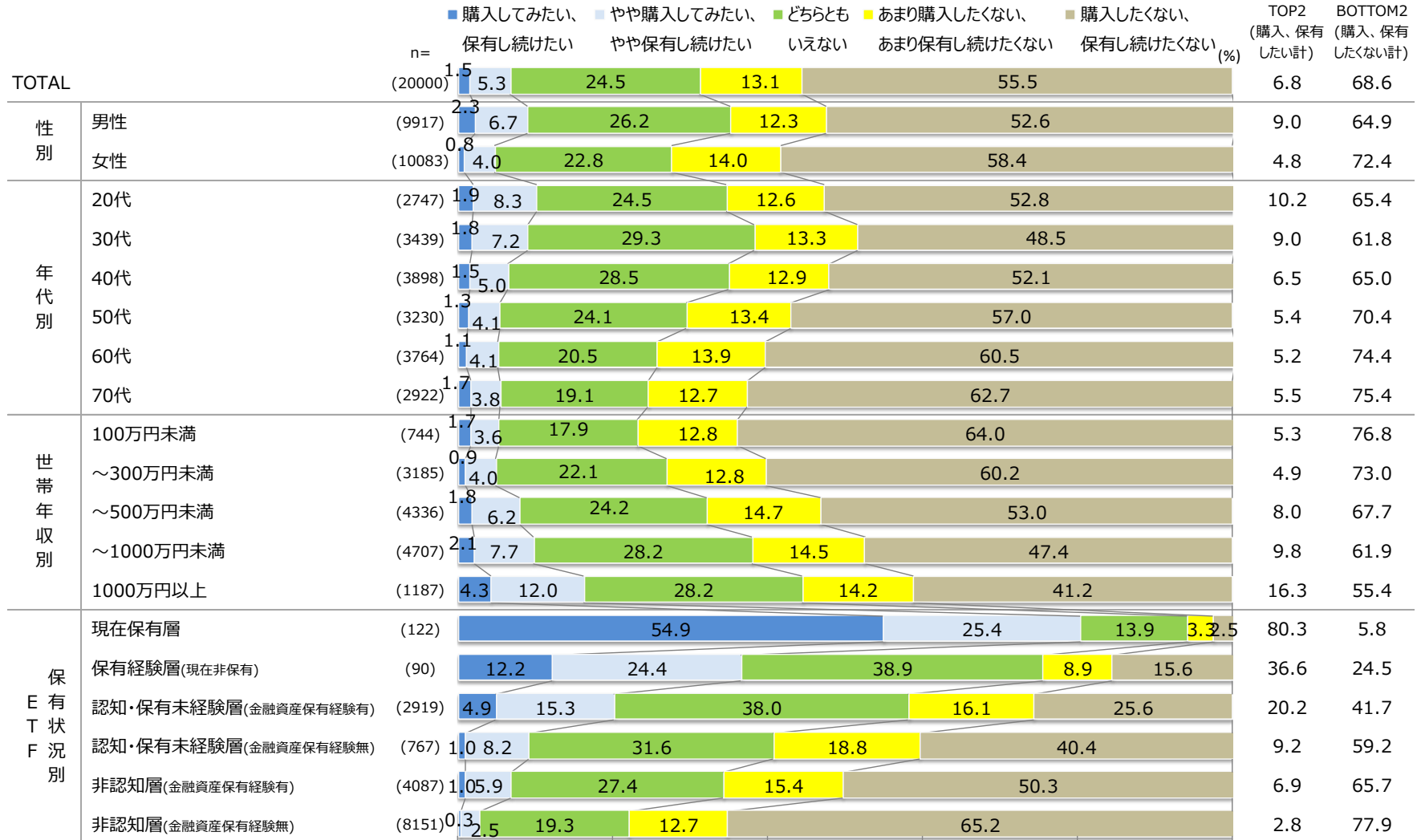
	n=	元本保証がない	リターン(収益)が低い	株式比べて面白さに欠ける	分配金が少ない	仕組みや運用実績がわかりにくい	専門知識がないと商品を選びにくい	種類が多く選択に迷う	購入後の運用に関する情報が少ない	債券に比べてリスクが高い	最低購入価額が高い	手続きがわずらわしい	積立ができない	その他	わからない・特いない
TOTAL	(1119)	29.4	22.9	18.2	16.5	16.2	16.2	14.2	11.6	9.3	7.4	7.1	5.8	0.6	24.1
性別	男性 (780)	25.3	24.4	18.5	16.5	14.9	14.0	13.5	9.7	7.1	7.4	6.8	5.0	0.8	25.6
	女性 (339)	38.9	19.5	17.7	16.5	19.2	21.2	15.9	15.9	14.5	7.4	7.7	7.7	0.3	20.6
年代別	20代 (85)	24.7	22.4	12.9	16.5	21.2	17.6	8.2	11.8	5.9	7.1	8.2	10.6	1.2	20.0
	30代 (178)	25.8	27.0	12.9	21.3	14.6	14.6	13.5	10.1	5.6	8.4	8.4	6.7	1.7	27.0
	40代 (206)	23.3	21.4	15.5	11.2	13.6	17.0	12.6	9.7	7.8	7.8	9.2	6.3	0.5	24.8
	50代 (165)	35.2	24.8	17.0	13.3	11.5	15.8	10.9	11.5	9.1	10.9	6.7	9.7	0.6	23.6
	60代 (254)	30.3	22.4	22.4	17.3	14.2	18.1	17.7	13.0	12.2	5.9	3.9	3.5	0.0	25.2
	70代 (231)	34.2	20.3	22.9	19.0	23.4	14.3	16.9	13.0	11.7	5.6	7.4	2.6	0.4	22.1
世帯年収別	100万円未満 (28)	25.0	25.0	17.9	14.3	14.3	10.7	7.1	10.7	7.1	3.6	3.6	3.6	0.0	28.6
	～300万円未満 (136)	41.2	16.9	20.6	13.2	18.4	16.2	14.0	13.2	9.6	8.8	9.6	7.4	0.0	20.6
	～500万円未満 (231)	29.9	21.2	17.7	17.7	17.7	13.4	17.3	12.6	10.8	4.8	3.0	3.0	1.7	21.2
	～1000万円未満 (365)	28.2	24.9	18.1	17.5	15.9	19.5	15.3	11.0	8.8	8.2	7.9	7.1	0.0	21.6
	1000万円以上 (183)	25.1	22.4	20.2	16.9	15.3	12.0	12.6	11.5	8.7	8.2	7.7	6.0	1.1	26.2
保有状況別	現在保有層 (122)	13.1	19.7	18.0	17.2	18.9	14.8	13.1	20.5	3.3	5.7	1.6	9.8	0.8	27.9
	保有経験層(現在非保有) (90)	25.6	17.8	17.8	20.0	8.9	7.8	20.0	11.1	4.4	4.4	4.4	6.7	2.2	24.4
	認知・保有未経験層(金融資産保有経験有) (786)	31.9	24.2	19.2	16.0	17.0	17.6	14.4	10.4	11.1	8.0	7.8	5.1	0.5	21.5
	認知・保有未経験層(金融資産保有経験無) (62)	38.7	22.6	9.7	16.1	8.1	12.9	11.3	8.1	11.3	8.1	6.5	4.8	0.0	33.9

- ETFの不満点は「元本保証がない」(29.4%)、「リターン(利益)が低い」(22.9%)、「株式に比べて面白さに欠ける」(18.2%)が上位にあがる。
- 現在保有層は「購入後の運用に関する情報が少ない」(20.5%)、「積立ができない」(9.8%)が、保有経験層では「分配金が少ない」「種類が多く選択に迷う」(共に20.0%)が他層に比べてやや高い。また認知・保有未経験層では金融資産の保有経験有無に関わらず、「元本保証がない」「リターンが低い」「債券に比べてリスクが高い」「最低購入価額が高い」「手続きがわずらわしい」といった不満が他層に比べてやや高い。

6. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向（5）

ETF今後の購入・保有意向

(Q11)

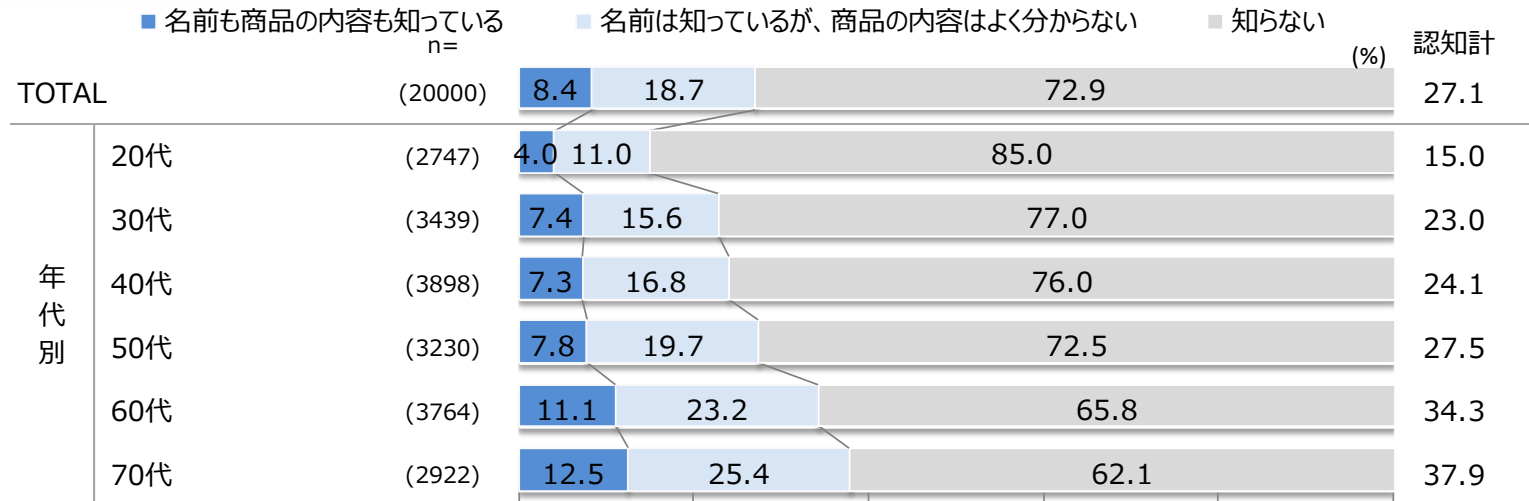


- ETF今後の購入・継続保有意向は、TOP2「購入、保有したい計」が6.8%、BOTTOM2「購入、保有したくない計」が68.6%との結果。
- TOP2「購入、保有したい計」は年代が下がるにつれ、また世帯年収が上がるにつれ増加する傾向。
- 現在保有層ではTOP2「購入、保有したい計」が80.3%と継続での保有意向は高い。
また保有経験層ではTOP2「購入、保有したい計」(36.6%)> BOTTOM2「購入、保有したくない計」(24.5%)と再度の購入意向が高い模様。

6. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向（6）

J-REITの認知

(Q8②)



J-REITの特徴認知（重複回答）

(Q12①)

(J-REIT認知者ベース)



- J-REITの認知率(認知計)は27.1%とETF(21.4%)に比べやや高い。ETFと同様に、年代が上がるにつれ認知率は高まる傾向。
- J-REITの特徴の認知は「元本保証がない」(38.1%)が最も高く、「少額から不動産投資できる」(31.4%)が続く。年代別では60代以上の高齢層で「元本保証がない」「専門家が運用や管理などを行う」「比較的高い利回りが期待できる」「保有資産にはオフィス～複合型などがある」の認知が高い。

6. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向（7）



J-REITの魅力点（重複回答）

(Q12②)

	n=	少額から 不動産 投資できる	比較的高い 利回りが 期待できる	運用益の ほとんどが 分配される	複数の 不動産に 分散して 投資できる	専門家が 運用や物件 の管理など を行う	換金性 ・流動性 が高い	開示され ている情報 が入手し やすい	インフレ対策 になる	保有資産 にはワイルド ・複合 型、総合型 などがある	元本保証 がない	ファンドに よって決算 期が分散 している	わからない ・特にな い	(%)
TOTAL	(20000)	11.2	10.2	6.8	6.3	5.8	4.7	4.2	3.9	2.5	2.1	1.9	74.9	
性別	男性 (9917)	11.7	10.3	7.3	7.1	5.4	5.3	3.7	4.4	2.4	2.5	1.9	73.3	
	女性 (10083)	10.6	10.0	6.2	5.5	6.2	4.1	4.7	3.4	2.5	1.6	2.0	76.6	
年代別	20代 (2747)	12.0	9.6	6.1	5.2	6.0	4.9	6.6	2.9	2.1	2.0	1.7	76.6	
	30代 (3439)	13.8	11.8	7.5	6.9	6.6	4.4	5.1	3.8	2.5	2.2	1.4	72.3	
	40代 (3898)	11.0	9.5	6.0	5.9	5.4	4.0	4.6	3.7	2.1	1.6	2.0	76.1	
	50代 (3230)	9.8	10.0	6.6	5.8	4.7	4.8	4.3	3.7	2.2	2.0	1.5	76.2	
	60代 (3764)	10.2	9.5	7.3	6.3	5.5	4.6	2.7	3.7	2.6	2.0	2.4	75.0	
	70代 (2922)	10.0	10.7	7.2	7.6	7.0	5.9	2.2	5.6	3.3	2.7	2.5	73.4	
世帯年収別	100万円未満 (744)	8.9	6.2	4.6	4.0	3.9	3.8	5.1	2.3	1.7	2.8	1.6	79.2	
	～300万円未満 (3185)	9.9	8.1	5.3	4.9	4.7	4.2	4.0	2.7	2.2	2.0	1.8	78.0	
	～500万円未満 (4336)	12.0	11.8	7.8	6.8	6.6	5.0	4.2	4.2	2.9	2.6	2.1	71.6	
	～1000万円未満 (4707)	14.3	13.1	8.7	8.3	7.2	6.2	5.1	5.5	3.0	2.3	2.2	68.1	
	1000万円以上 (1187)	20.0	17.9	13.8	14.2	9.2	8.8	6.5	8.5	4.2	2.8	4.4	57.0	
J-REIT保有状況別	現在保有層 (411)	37.2	44.5	32.4	38.0	21.2	20.7	8.0	24.1	18.7	4.6	11.7	10.5	
	保有経験層(現在非保有) (165)	41.2	36.4	24.8	33.9	22.4	13.3	4.2	20.0	13.9	3.6	6.1	21.2	
	認知・保有未経験層(金融資産保有経験有) (3098)	23.9	22.5	16.4	16.5	12.3	9.8	4.8	10.6	6.2	3.2	4.3	43.8	
	認知・保有未経験層(金融資産保有経験無) (1252)	14.8	12.6	6.9	7.3	6.3	7.4	8.2	5.0	3.7	1.8	2.1	68.5	
	非認知層(金融資産保有経験有) (3544)	10.9	11.6	7.2	5.4	6.9	4.9	4.3	3.5	1.6	2.3	2.1	74.1	
	非認知層(金融資産保有経験無) (7666)	7.4	5.7	3.5	2.5	3.7	2.6	4.0	1.3	0.8	1.5	0.8	86.1	

● J-REITの魅力点は「少額から不動産投資できる」(11.2%)、「比較的高い利回りが期待できる」(10.2%)が上位となる。

● 現在保有層では「比較的高い利回りが期待できる」が44.5%と最も高くなる。保有経験層では「少額から不動産投資できる」が41.2%で最も高い。

6. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向（8）



J-REITの不満点（重複回答）

(Q13①)

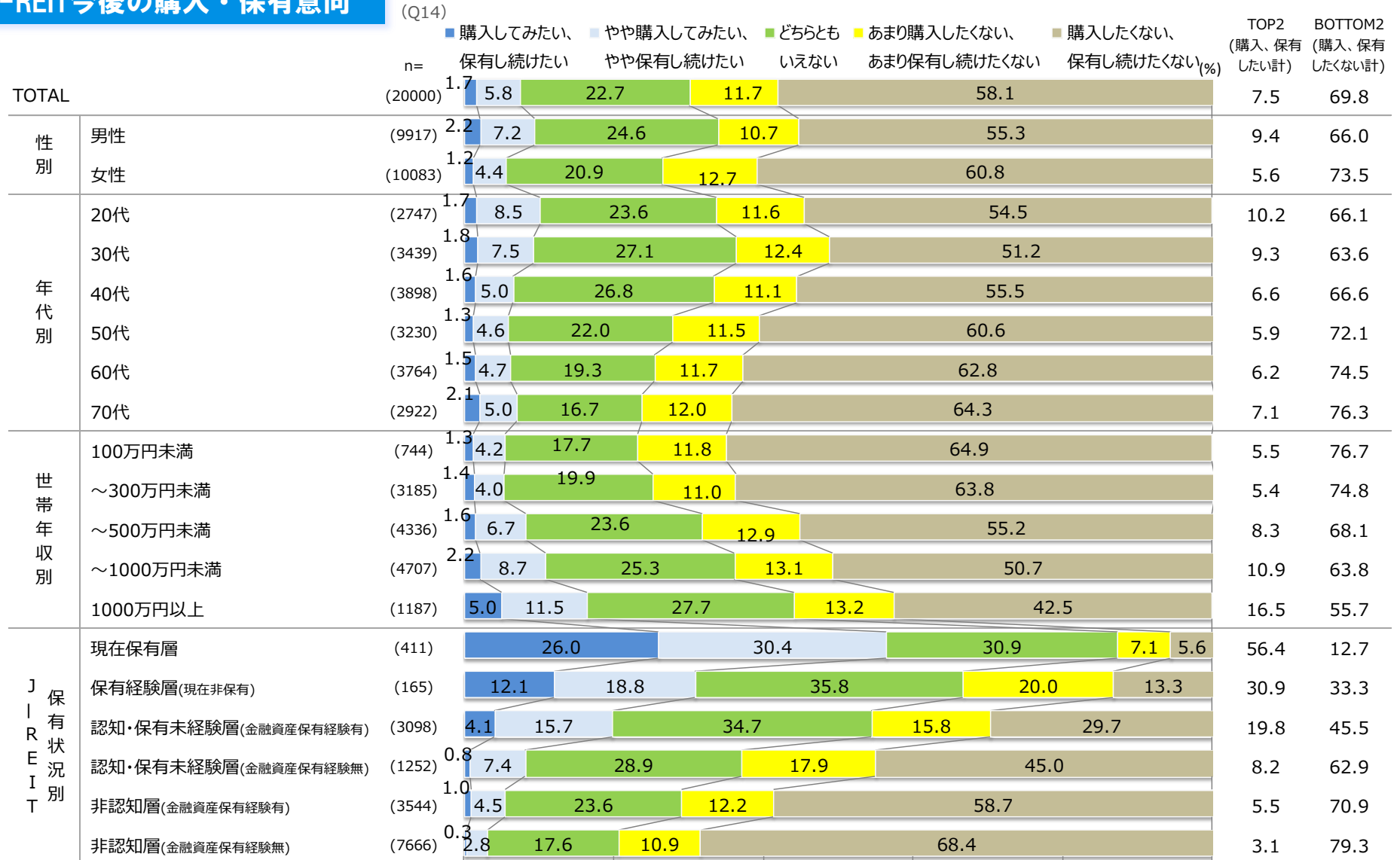
(J-REIT保有経験者および内容認知者ベース)

		n=	元本保証がない	専門知識がないと商品を選びにくい	仕組みや運用実績がわかりにくい	種類が多く選択に迷う	債券に比べてリスクが高い	購入後の運用に関する情報が少ない	リターン(収益)が低い	株式に比べて面白さに欠ける	分配金が少ない	最低購入価額が高い	手続きがわずらわしい	その他	わからない・特になし (%)
TOTAL		(1769)	34.8	18.5	17.8	14.6	14.0	11.8	11.0	10.6	8.2	8.0	6.8	1.0	24.9
性別	男性	(1136)	28.3	16.3	17.4	13.1	11.9	10.7	11.8	11.6	8.4	8.4	6.5	1.1	26.5
	女性	(633)	46.4	22.4	18.5	17.2	17.7	13.9	9.5	8.7	7.9	7.4	7.4	0.8	22.1
年代別	20代	(112)	24.1	18.8	13.4	12.5	11.6	8.9	10.7	9.8	7.1	9.8	8.9	4.5	28.6
	30代	(259)	27.4	14.7	17.8	12.4	12.0	8.1	11.6	6.2	7.7	9.3	6.9	0.8	26.3
	40代	(294)	25.2	15.3	15.3	16.0	9.9	8.5	13.3	8.8	7.8	9.2	8.8	1.4	27.9
	50代	(262)	46.2	22.1	19.1	15.3	14.5	8.4	13.0	9.2	6.5	9.5	8.4	1.5	20.6
	60代	(445)	37.3	18.7	17.1	12.8	15.7	15.1	9.2	13.5	10.8	5.6	6.7	0.4	25.4
	70代	(397)	39.3	20.7	20.9	17.1	16.6	16.1	9.6	12.6	7.3	7.6	3.8	0.3	23.2
世帯年収別	100万円未満	(32)	40.6	18.8	9.4	9.4	6.3	9.4	18.8	9.4	18.8	9.4	12.5	0.0	28.1
	~300万円未満	(216)	42.6	21.3	19.0	16.2	18.5	13.4	11.6	12.0	10.2	8.8	5.1	1.4	20.4
	~500万円未満	(404)	36.6	18.3	16.8	15.3	15.3	14.9	10.6	10.9	9.4	8.7	5.4	1.7	24.0
	~1000万円未満	(564)	33.2	18.1	18.1	14.0	12.1	11.2	9.0	9.4	6.6	7.4	6.9	0.7	24.1
	1000万円以上	(262)	28.6	17.2	20.2	14.5	14.1	8.0	14.5	10.3	5.7	6.5	7.3	1.5	23.3
J-REIT保有状況別	現在保有層	(411)	37.5	15.8	19.2	16.1	14.8	12.9	11.9	10.5	9.5	5.8	4.6	1.2	23.1
	保有経験層(現在非保有)	(165)	37.0	18.8	16.4	17.6	20.0	15.2	10.9	10.9	7.3	11.5	3.6	1.2	20.6
	認知・保有未経験層(金融資産保有経験有)	(1005)	33.5	20.0	18.3	14.3	13.5	11.2	10.6	11.3	8.0	7.8	7.3	0.9	24.6
	認知・保有未経験層(金融資産保有経験無)	(98)	39.8	17.3	9.2	11.2	11.2	4.1	10.2	3.1	5.1	12.2	11.2	1.0	31.6

- J-REITの不満点は「元本保証がない」(34.8%)が突出。次いで「専門知識がないと商品を選びにくい」(18.5%)、「仕組みや運用実績がわかりにくい」(17.8%)が上位に続く。
- J-REIT保有状況別では、保有経験層で「債券に比べてリスクが高い」(20.0%)が他層に比べてやや高い。

6. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向（9）

J-REIT今後の購入・保有意向



- J-REITの今後の購入・継続保有意向は、TOP2「購入、保有したい計」が7.5%、BOTTOM2「購入、保有したくない計」が69.8%との結果。
- TOP2「購入、保有したい計」は、年代が下がるにつれ、また世帯年収が上がるにつれ増加する傾向。
- 現在保有層ではTOP2「購入、保有したい計」が56.4%と、ETF(TOP2「購入、保有したい計」:80.3%)に比べ低くなる。